

奥会津地域における 広域連携地域づくり推進業務 報告書



令和4年 2月

目次

1	業務目的・業務概要	2
2	広域連携地域づくり検討会議の運営	5
3	連携事業の課題等整理	10
4	奥会津地域における 広域地域づくり法人(中間事業体)の組成・育成に向けて	34
5	まとめ・次年度以降の提言	38
	参考資料	42
	概要版 令和3年度奥会津地域における広域連携地域づくり推進業務のまとめ	

<別添資料>

- 奥会津広域連携地域づくり検討会議 議事概要
- 奥会津奥会津7町村・観光協会ヒアリング録

1

業務目的・業務概要

- 「100年後も活力に満ちた豊かな奥会津」の実現に向け、各町村が抱える課題を共有しながら、広域連携すべき分野を見出し、具体的な連携事業を検討する。

業務目的

- 奥会津地域は第四期只見川電源流域振興計画（2020-2029）のもと、**100年後も活力に満ちた豊かな奥会津の実現**に取り組んでいる。
- 現在、各町村は、人口減少やそれに伴うコミュニティ縮小、空き家の増加、産業の衰退等の共通の課題を抱えている。
- 第四期只見川電源流域振興計画における各種目標の達成に向けて、奥会津地域における交流人口の増加を図ることで、これらの課題に対応するためには、広域的な地域づくり（特に観光施策における）を進めていく必要がある。
- 本事業においては、上記を達成するため、地域内各町村における課題やそれぞれの取り組み・施策等を共有し、その解決に向けて各事業主体が連携して取り組むシステムを構築するとともに、連携事業についての課題や具体的な手法について検討を行う。

業務対象

- 奥会津地域は柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町（南郷・伊南・舘岩地区）・檜枝岐村の7地域を指す。
- 本業務ではこの7町村を対象に検討を行う。

図：対象となる奥会津地域



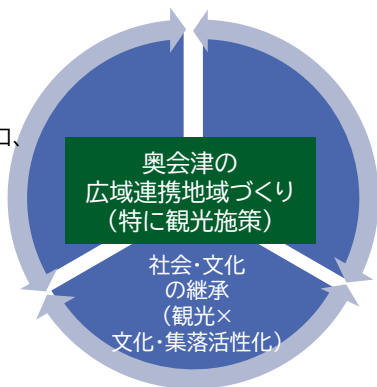
- 広域連携地域づくり検討会議を通して各町村における課題やそれぞれの取り組み・施策等を共有し、その解決に向けて各事業主体が連携して取り組むシステムを構築するとともに、連携事業についての課題や具体的な手法について検討する。

図 本業務の検討の意義・構成

本事業の意義

- 奥会津地域の各町村は、交流人口の拡大をはじめ、移住・定住、生業の強化・創出、社会文化の継承といった課題に対する取組を行っている。
- 第四期只見川電源流域振興計画(2020-2029)は「100年後も活力に満ちた豊かな奥会津」の実現に向け、こうした各町村の取組を共有し、連携して取り組むことを掲げている。
- 本事業では、各町村共通の課題に対する取組を整理し、広域的な地域づくり(特に観光施策における)に向けた具体的な広域連携事業の抽出、次年度以降の具体事業や広域連携の推進体制の構築に取り組む。

リピーター・
移住・定住の促進
(観光×交流・関係人口、
空き家対策・就業政
策)



生業の強化・創出
(観光×農林業・伝
統産業)

本事業の構成

(1) 広域連携地域づくり検討会議の運営

- ① 会議に向けての課題整理(会議前の事務局との打ち合わせ含む)
会議開催数:概ね5回程度
- ② 会議における各種参考資料の提供(各地の地域づくり法人等の情報提供)
- ③ 会議への出席及び事務局説明の補助
- ④ 連携事業実施に向けての資料提供等(先進地事例の紹介含む)

(2) 連携事業の課題等整理

- ① 連携事業を行うにあたっての手法等の提案
- ② 連携事業の今後の展開における提言等

(3) 奥会津地域における広域地域づくり法人(中間事業体)の組成・育成

- ① 地域づくり法人(中間事業体)の必要性と奥会津での役割の整理
- ② 中間事業体の組成・育成に向けた構成町村・只見川電源流域振興協議会・民間それぞれの役割の整理

2

広域連携地域づくり検討会議の運営

- 本事業の中心となる会議体として、「奥会津広域連携地域づくり検討会議」を設置。7町村の観光担当部署の課長・係長、観光協会担当者等の参画を得て、全5回の会議を開催。
- 検討会議の開催に当たっては、観光施策を含めて幅広い視点で各町村の課題、現在の施策等を収集・共有しながら、令和4年度以降の7町村による広域連携事業の内容、体制について議論・取りまとめた。

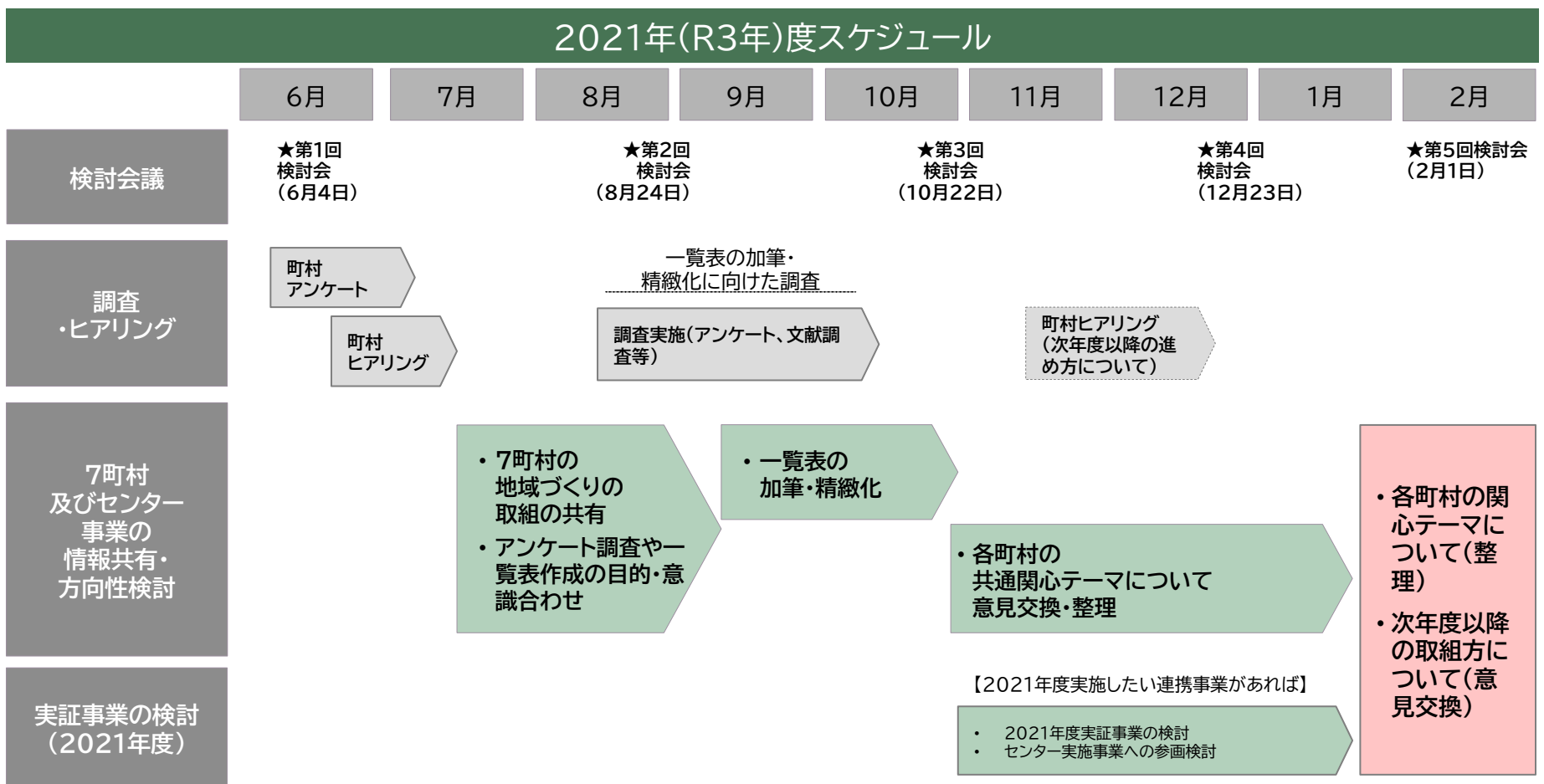
図 令和3年度(2021年度) 奥会津広域連携地域づくり検討会議の開催概要

回	日時	場所	主な議事
第1回 (※)	2021年6月4日(金) 15:15~16:00	只見町只見振興センター 1階 集会室	1. 2021年度の検討内容 2. 広域連携地域づくり検討会議の位置づけと検討内容 3. 今年度のスケジュール 4. 次回検討会に向けたアンケート
第2回	2021年8月24日 (火) 13:30~15:00	オンライン開催(ZOOM)	1. 奥会津7町村の地域づくりに関するアンケート、ヒアリング結果について
第3回	2021年10月22日 (金) 13:30~15:00	金山町開発センター 3階 大会議室	1. 第2回奥会津7町村の地域づくりに関するアンケート結果について 2. 広域連携地域づくりに向けた奥会津7町村の取組共有に向けた意見交換
第4回	2021年12月23日 (木) 13:30~15:00	只見町只見振興センター 1階 集会室	1. 第2回ヒアリング結果の共有についておよび意見交換 2. 令和4年度(2022年度)検討テーマ(案)についておよび意見交換 3. 令和5年度(2023年度)以降のスケジュールについて
第5回	2022年2月1日(火) 13:30~15:00	オンライン開催(ZOOM)	1. 令和3年度(2021年度)のまとめ(案)について 2. 令和4年度(2022年度)検討会議の進め方について 3. 令和4年度(2022年度)検討テーマと進め方について

※第1回は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、日本交通公社、MENDIは不参加。日本交通公社は事前に資料を送付。

2-2 奥会津広域連携地域づくり検討会議の進め方(令和3年度)

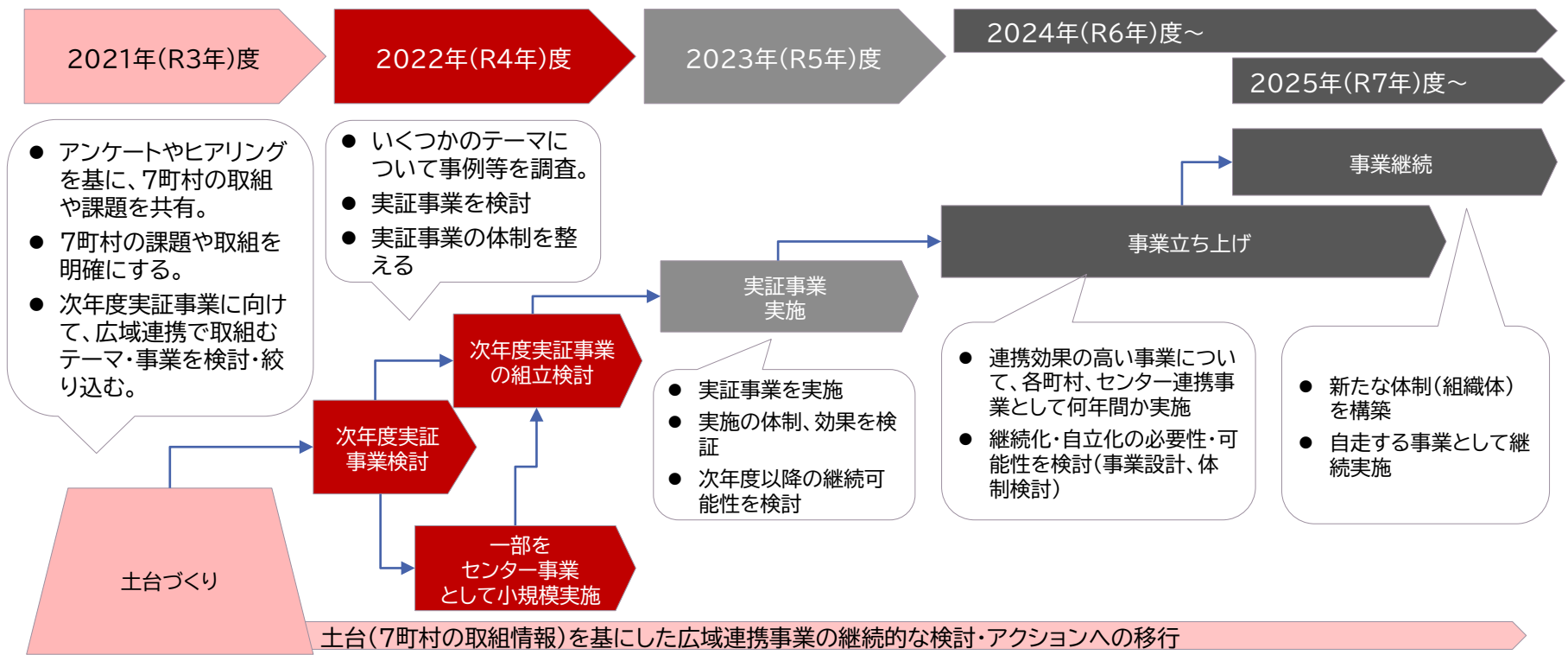
- 「奥会津広域連携地域づくり検討会議」は、全5回の開催とし、7町村、観光協会の現在の取組、課題認識、今後の広域連携事業として取り組むべき事業等について意見を収集、整理しつつ、検討会議の場で共有しながら次年度の広域連携事業に向けた整理を行った。
- 具体的には、検討会議の事前に、7町村及び各観光協会に対して2回のアンケート調査(第2回前、第3回前)、ヒアリング調査を2回(第2回前、第4回前)を実施した。



2-2 奥会津広域連携地域づくり検討会議の進め方(令和4年度以降の想定)

- 広域連携事業を具体化し、実証・改善しながら段階的に進めるために、中長期的な視野を持って議論を進める必要がある。
- そこで、令和3年度(2021年度)を7町村の広域連携による地域づくりの土台づくりの年度と位置付け、令和4年度(2022年度)においては小規模な実証事業を実施、令和5年度(2023年度)の本格的な実証事業へと展開する。さらに、2024年度以降の継続的な事業実施の可能性、体制を検討しながら継続的な事業を実施する体制・仕組みを検討することとした。

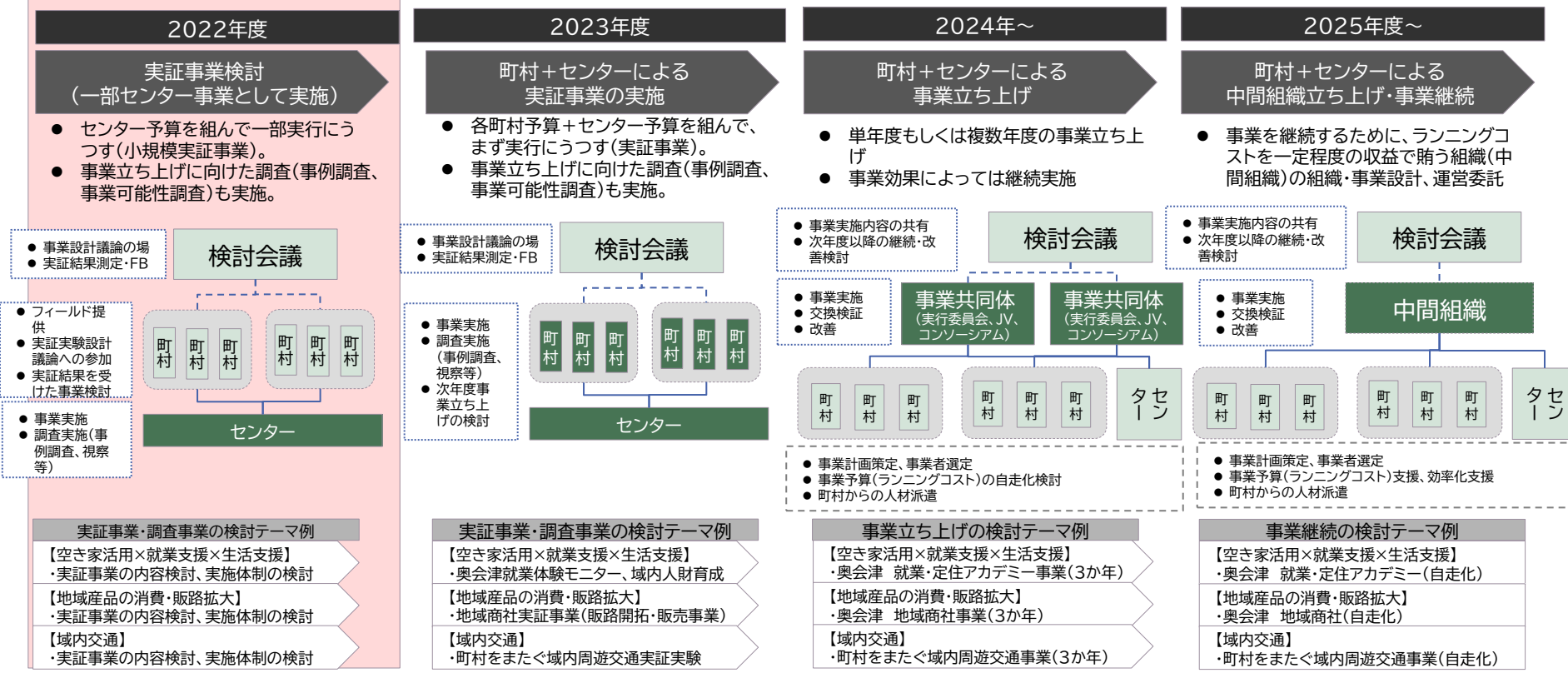
奥会津広域連携地域づくりの中長期的な進め方



2-2 奥会津広域連携地域づくり検討会議の進め方(実施体制の想定)

- 広域連携事業の具体化に向けて、令和4年度(2022年度)以降の実施体制を想定する必要がある。
- 具体的には、令和4年度(2022年度)においては7町村の連携を前提としながら奥会津振興センターを中心に小規模な実証事業を実施することを想定することとした。さらに、令和5年度(2023年度)においては、各町村・奥会津振興センター双方の予算を活用する形での実証事業の実施を検討することとした。
- 実証事業を実施しながら、広域連携事業の継続的な実施体制を検討する。具体的には、各町村及び奥会津振興センター双方による共同事業化、より継続的な実施体制である中間組織の設立等を検討することとした。

2022からは実証事業の内容とともに、将来を見据えた実施体制を検討



3 連携事業の課題等整理

- 連携事業の課題等整理にあたっては、①課題や現在の取組の抽出・整理、②課題や現在の取組の深堀と広域連携事業の抽出、③広域連携事業の絞り込み、④令和4年度実証事業の検討といった、4つのステップでの調査を実施した。
- 具体的には、検討会議の開催に合わせた2回のアンケート調査、2回のヒアリング調査を実施し、7町村及び観光協会の意見を踏まえた実現性の高い広域連携事業として取りまとめた。

実施事項	目的	情報収集・整理
① 7町村・観光協会の現在の取組の抽出・整理	<ul style="list-style-type: none"> ● 7町村・観光協会の現在の地域づくりの取組の把握と共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査 ● ヒアリング調査 ● 第2回検討会議
② 広域連携すべき事業の抽出	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域連携事業として、より効果的・効率的な事業運営、顧客視点のより魅力ある地域づくりを目指すべき事業の把握と共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート調査 ● 第3回検討会議
③ 広域連携事業の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度以降、7町村・観光協会・奥会津振興センターが連携して、具体的に取組んでいくべき事業の把握、絞り込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒアリング調査 ● 第4回検討会議
④ 令和4年度 実証事業の検討	<ul style="list-style-type: none"> ● 短期的に取組むべき事業の中から、次年度に実施する実証事業の具体化、事例収集。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 第5回検討会議

3-2 7町村の取組等の抽出・整理(第1回アンケート・ヒアリング調査)

- 初回の調査として、下図の調査票によるアンケート調査、ヒアリング調査によって、7町村・観光協会の現在の取組の抽出・整理を行った。
- 本調査結果を第2回検討会議にて、7町村・観光協会が共有することによって他の町村の取組の中で、関心があるもの、自町村でも取り組みたいもの、広域連携によって取り組むべきもの等について議論を行った。

図 会津7町村(自治体・観光協会)の取組の把握・共有のためのアンケート調査票

①自治体(観光協会)として令和3年度に実施する地域づくり等に関する事業について、ご記入ください。
 (地域づくり等に関する事業は、集落の再生、地域産業の強化・創出、地域文化の維持・活用、自然や地域文化の体験等、地域産品や観光の販売、プロモーション、二次交通等としています。それ以外の事業がございましたら、その他欄にご記入ください)

取組分野	事業名	概要(実施地域・内容等)	実施手法 (あてはまるものに○をつけてください。)	実施時期	実施部署 ・担当者名・連絡先
<記入例> 地域産業の強化・創出	奥会津の逸品を全国へ事業	販売ルートや購入ターゲットを想定した奥会津産品を活用した商品開発と販売手段の確立を目指す。	・直営 ・委託(振興公社等民間業者)	令和3年7月募集開始 令和4年2月終了	
<記入例> 集落の再生(景観整備、古民家・空き家の再生、宿泊、飲食施設等としての活用等)	集落の魅力強化・交流拠点化事業	空き家となっている古民家について、交流拠点として活用することを要件に、リノベーションや周辺景観整備費用を補助する。	・直営 ・委託(振興公社等民間業者)	令和3年7月開始 令和7年終了見込	
集落の再生(景観整備、古民家・空き家の再生、活用等)					
地域産業の強化・創出(農業、伝統工芸、観光、その他)					
地域文化の維持・活用					
自然や地域文化の体験・アクティビティの強化・創出					
地域産品、観光の販売・プロモーション強化					
二次交通の強化・創出					
その他					

②今後、地域課題解決のために広域連携で実施したい取組をご記入ください(自治体に限らず、地域内の民間の取組も含めてご記入ください)

取組の概要・名称等	主な関係者(事業者)	その他(目標とする実施時期等)
<記入例> 電動自転車を活用した地域の周遊促進	観光協会、町内観光施設(サイクルポート設置拠点)、町内の宿泊、飲食、物販、見学・体験施設等	令和3年度中に立ち寄り拠点でのサービスや周遊ルートを紹介する割引券付きマップを作成。令和4年度から各拠点やWebサイトで配布したい。

3-2 7町村の取組等の抽出・整理(第1回アンケート・ヒアリング調査)

- 第1回アンケート調査、ヒアリング調査によって、各町村の取組や課題意識を下図のように整理した。
- 各町村ともに「人口減少によって地域の持続が困難(空き家拡大に見られる集落・コミュニティの維持が困難)」といった課題を有しており、「地域の持続(100年続く奥会津)」に向けて、観光振興と連携した「生業の強化・創出」「社会・文化の継承」「リピーター・移住・定住の促進」が求められていることを共有した。

図 広域地域づくりに向けた、奥会津7町村それぞれの取組の整理



① 奥会津7町村における地域づくりの取組

取組	柳津	三島	金山	昭和	只見	南会津	檜枝岐
集落の再生(景観整備、古民家・空き家の再生、宿泊、飲食施設等としての活用等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圓蔵寺周辺の景観美化・清掃活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい村づくり事業(地区づくり事業に補助) ・ 空き家対策事業(空き家・空き地バンク、回収・解体等補助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川農村公園整備事業(景観整備) ・ 地域協同組合(奥会津金山特定地域づくり事業協同組合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家活用整備事業(ポケットパーク、テレワーク施設、村営住宅として) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落応援交付金 ・ 南会津町伝統的建造物群保存地区保存事業 ・ 田代山南釈山環境保全全業務(登山道、トイレの管理) ・ 田島地区山岳整備事業 ・ 彩のまちづくり事業(樹木や植栽の整備) ・ 移住コーディネーター設置 	
地域産業の強化・創出(農業、伝統工芸、観光、その他)		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活工芸村構想事業(農山村生活実践体験、三島町生活工芸アカデミー) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤カボチャ加工場整備(検討段階) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ かすみ草新規就農支援事業 ・ 喰丸小チャレンジショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業振興対策事業補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業成長産業化地域創出モデル事業(機械購入補助、施設建設等) 	
地域文化の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縄文館活用事業(展示リニューアル) ・ 会津やないづ冬まつり補助事業 ・ 丑寅まつり ・ 壺まつり灯ろう流し ・ 圓蔵寺の行事 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 田島祇園祭屋台歌舞伎保存事業 ・ 古町のまつり事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農村歌舞伎の活用
自然や地域文化の体験・アクティビティの強化・創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ うつくしまみずウォーク補助事業(ウォーキングイベント) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 霧幻映の渡し(廃村になった集落や昔ながらの渡し舟、かつて三更集落(関根集落)があった中川エリアでの渡し舟運行実証事業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ からむし織関連(からむし織の里フェア、からむし織の里雪まつり、からむしの織体験) ・ フォトコンテスト事業 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 会津高原スキー場協議会誘客促進事業 ・ 南会津農村生活体験推進協議会支援事業 ・ 観光アンバサダー育成事業 ・ 地域資源を活用(桜ウォークこども溪流まつり、鉦岩名山・大桃の舞台・伊南川・ひめさゆり) ・ 山開き事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業(動画作成、モニターツアー)
地域産品、観光の販売・プロモーション強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光客誘客促進事業(農工商連携イベント、花火打ち上げ、周遊バス運行PR動画作成) ・ 会員事業所のPR事業(情報を集約発信) ・ 会津やないづ歴史検定事業 ・ Rice to meet you 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三島町プレミアム宿泊券事業補助金 ・ 農産物の販売・消費の拡大(「ふくしまプライド。」) ・ 通信販売 ・ 赤カボチャブランディング ・ 地場産品販路拡大大事業(展示会出展、マーケット把握) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の販路・消費の拡大(「ふくしまプライド。」) ・ 通信販売 ・ 赤カボチャブランディング ・ 姫ます寿司新商品の開発、販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報発信事業 ・ スタンダラリー事業(商品が地場産品や村内金券) ・ 道の駅特産品通信販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映画「峠」を契機とした地域振興・誘客 ・ 只見駅前賑わい創出事業(総合案内機能・飲食物販等整備) ・ 只見線観光路線化モデル事業(三石神社縁結びPR、おつまみマトンの製造販売) ・ せんべいづくり ・ 只見線による交流創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品勾配支援事業(ECサイト運営、EC構築支援) ・ 南会津新そばまつり事業 ・ 誘客・PR関連事業(観光誘客プロモーション事業、広告宣伝事業、観光物産PR事業(友好都市等で実施)、観光パンフレット制作事業) ・ 南会津に泊まって応援キャンペーン事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 檜枝岐の魅力を提供する事業(スタンダラリー等) ・ 情報発信事業(福島県及び近隣県での観光キャラバン) ・ まるごと南会津観光PRフェア
二次交通の強化・創出		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「駅からサイクリング」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会津川口駅レンタサイクル事業 ・ 観光タクシー運行事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レンタサイクル事業 ・ レンタカー利用者宿泊費助成事業 ・ 村民送迎 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電動レンタサイクル整備 ・ 定期路線ワゴン「自然首都只見号」運行 ・ 只見駅観光路線化モデル事業(観光タクシー新規ルート検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域公共交通運行事業(デマンド交通、乗合タクシー運行) ・ 公共交通対策事業(検討の実施) 	
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾との交流事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然教室(埼玉県草加市の児童) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山村教育留学制度(県立只見高校入学生徒に寮を提供) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合宿誘致促進事業 ・ 都市交流事業 ・ 文京区交流事業 ・ イベント等感染防止対策事業 	

② 既に連携して取り組んでいる事業例

取組	柳津	三島	金山	昭和	只見	南会津	檜枝岐
集落の再生(景観整備、古民家・空き家の再生、宿泊、飲食施設等としての活用等)					移住コーディネーター設置(福島県事業として南会津地区内)	移住コーディネーター設置(福島県事業として南会津地区内)	移住コーディネーター設置(福島県事業として南会津地区内)
地域産業の強化・創出(農業、伝統工芸、観光、その他)	かすみ草の生産・販売【昭和×柳津×三島×金山】	かすみ草の生産・販売【昭和×柳津×三島×金山】	かすみ草の生産・販売【昭和×柳津×三島×金山】	かすみ草の生産・販売【昭和×柳津×三島×金山】			
地域文化の維持・活用							
自然や地域文化の体験・アクティビティの強化・創出							
地域産品、観光の 販売・プロモーション強化	Rice to meet you(米・肉の広域連携イベント)【柳津×三島×金山×只見×会津坂下】	Rice to meet you(米・肉の広域連携イベント)【柳津×三島×金山×只見×会津坂下】	Rice to meet you(米・肉の広域連携イベント)【柳津×三島×金山×只見×会津坂下】		Rice to meet you(米・肉の広域連携イベント)【柳津×三島×金山×只見×会津坂下】		
二次交通の強化・創出							

③ 今後、地域課題解決のために広域連携で実施したい取組

取組	地域						
	柳津	三島	金山	昭和	只見	南会津	檜枝岐
集落の再生(景観整備、古民家・空き家の再生、宿泊、飲食施設等としての活用等)		<ul style="list-style-type: none"> 移住コーディネーター設置 地域づくり、移住、生業振興への貢献 		<ul style="list-style-type: none"> 空き家関連事業(住まいの終活セミナー、勉強会) 		<ul style="list-style-type: none"> 移住定住関連 	
地域産業の強化・創出(農業、伝統工芸、観光、その他)	<ul style="list-style-type: none"> 農業連携 かすみ草の廃棄部分の活用 			<ul style="list-style-type: none"> かすみ草新規就農支援事業 			
地域文化の維持・活用		<ul style="list-style-type: none"> コロナ後にまず行う活動としての奥会津内交流促進 					<ul style="list-style-type: none"> 伝統芸能、年中行事(イベント)
自然や地域文化の体験・アクティビティの強化・創出							
地域産品、観光の 販売・プロモーション強化	<ul style="list-style-type: none"> 共通観光窓口の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の事業者をつなぐ新たな販路づくり 					<ul style="list-style-type: none"> 他町村の農作物を檜枝岐の宿で提供する等、物産の分野での連携
二次交通の強化・創出	<ul style="list-style-type: none"> 共通サイクルポート設置 JR線、路線バスの乗り継ぎ情報整理 新潟とつながるロングレールコース作成 	<ul style="list-style-type: none"> レンタサイクル事業の連携 JR只見線を利用した輪行 	<ul style="list-style-type: none"> ほかの交通手段を組み合わせた共通レンタサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> 共通サイクルスポットマップ作製 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の電動自転車乗り捨てスポット 町村横断型観光タクシー 二次交通・一次交通の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 広域周遊ルート創出 交通機関の確保、公共交通での連携 	

3-3 広域連携すべき事業の抽出(第2回アンケート調査)

- 第2回の調査では、第1回調査結果を基に、広域連携すべき事業の抽出を行った。
- 具体的には、今後検討すべき事業テーマを「歴史文化・自然の保全・継承、人材育成」「地域産業の魅力強化、流通・販売の強化、人材育成」「観光体験の魅力強化、地域内での情報共有・発信」「観光・交流人口、関係人口の拡大」「移住・定住者とのマッチング」「地域間交通の強化」の6テーマに整理し、各町村・観光協会の取組の深堀(取組を進める中で見えてきた課題)、課題を広域連携で解決すべき取組等をアンケート調査によって抽出・整理を行った。

図 第2回 奥会津7町村(自治体・観光協会)の取組の把握・共有のためのアンケート調査票(抜粋)

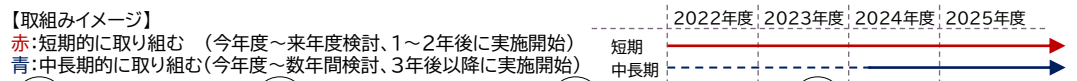
記入方法

①まずこちらの記入内容をご確認ください。

取組	これまでいただいた事業・ご意見			回答欄			実施担当部署 担当者名 連絡先
	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例	貴町村の取組の追記・修正	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例	
地域文化(建造物)の保全・継承	・館岩前沢集落(曲屋)の保存【南会津】 ・喰丸小学校の保全・活用【昭和】 ・南会津町伝統的建造物群保存地区保存事業【南会津】 ・「板倉」の移築・保存【檜枝岐】 ・農村舞台(歌舞伎舞台)の保全・活用【檜枝岐】	・建造物が知られていない(活用できていない) ・他地域との文化的広がりを奥会津として伝えられていない。	・奥会津の共通した地域文化(曲屋、板倉、歌舞伎舞台等の建造物)の維持・保存、奥会津としての活用	・○○○○○○○○○○の保存	・○○○○○○○○○○の必要がある。	・○○○○○○○○○○の保存を連携して行い、観光資源として有効に活用する必要がある。	観光商工係 黒澤 0241-42-7125
地域文化(祭事等)の保全・継承	・縄文館活用事業(展示リニューアル)、会津やないづ冬まつり補助事業、虫貢まつり、壺まつり灯ろう流し、圓藏寺の行事【柳津】 ・イノカミをはじめとした伝統行事【三島】 ・早乙女踊り【昭和村、只見、南会津】 ・田島紙園祭舞台歌舞伎保存事業、古町のまつり事業【南会津】	・建造物が知られていない(活用できていない) ・他地域との文化的広がりを伝えられていない。	・奥会津の共通した地域文化(祭事、舞踊)の維持・保存 ・冬まつりの連携(会場のはしご、移動等)【只見】 ・伝統芸能、年中行事(イベント)の連携【檜枝岐】	②左欄の「7町村の取組」を確認いただき、追記、修正等が必要な事項をご記入ください。また、必要に応じて他部署等にもご確認ください。(空欄でも構いません)	③貴町村において、取組を進めている中で見えてきた課題と考えている事項がありましたら、ご記入ください。(例：1町村では保存しても広がらない。観光客に対して広域的に取り組む必要がある等) (空欄でも構いません)	④左記の課題に対して実施すべき取組、実施したい取組等がありましたら、ご記入ください。(空欄でも構いません)	
里山・自然環境の保全・継承	・田島地区山岳整備事業、田代山帝釈山環境保全業務(登山道、トイレの管理)【南会津】						
集落の景観整備	・圓藏寺周辺の景観美化・清掃活動【柳津】 ・美しい村づくり事業(地区づくり事業に補助)【三島】 ・中川農村公園整備事業(景観整備)【金山】 ・集落応援交付金、彩のまちづくり事業(樹木や植栽の整備)【南会津】 ・景観ガイドラインの構築【只見】	奥会津に残る、我が国でも稀な日本の原風景を、奥会津として維持・保存し、地域の魅力としていく必要がある。	・奥会津で統一した景観ガイドライン				
空き家の解体	・空き家対策事業(回収・解体等補助)【三島】 ・空き家対策事業(回収・解体等補助)【只見】						
その他の取組、課題、連携すべき取組などがあればご記入ください	⑤その他のご意見、ご要望等ご自由にご記入ください。			○○○○○○○○○○の保存			

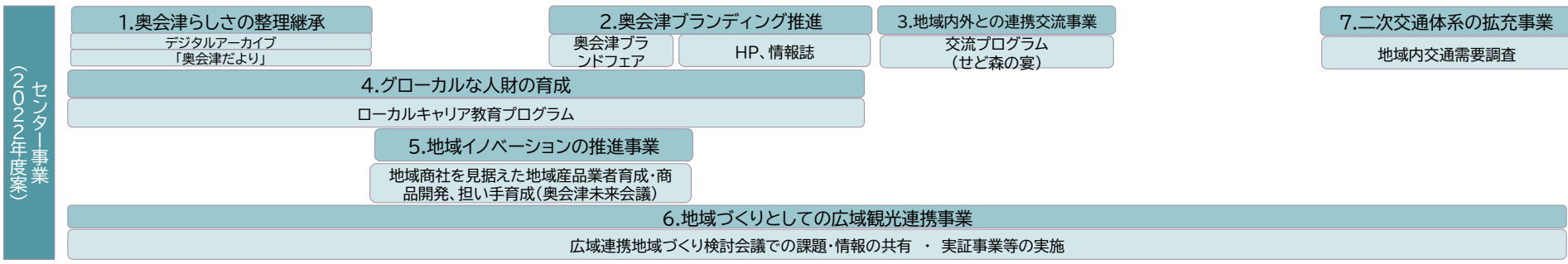
3-3 広域連携すべき事業の抽出(第2回アンケート・ヒアリング調査)

● 第2回の調査結果については、短期的/中期的/長期的に取り組むべき項目に分類した上で、短期的に取り組むべき項目については、実施に向けた具体的な議論を行った。また、奥会津振興センターの令和4年度(2022年度)事業との整合性の確認を行った。



7 町民からの意見

歴史文化・自然の 保全・継承、人材育成	地域産業の魅力強化、 流通・販売の強化、人材育成	観光体験の魅力 強化、地域内での 情報共有・発信	観光・交流人口、 関係人口の拡大	移住・定住者 とのマッチング	地域間交通の強化
地域文化・原風景・集落・自然等の 保全・活用 【地域文化(建造物)の保全・継承】 ・ 共通地域文化(曲屋、板倉、歌舞伎舞台等の 建造物、茅材の生産・供給体制)の維持・保存 ・ 中川農村公園整備事業(景観整備) 【地域文化(祭事等)の保全・継承】 共通地域文化(祭事、舞踊)の維持・保存 ・ 伝統芸能、年中行事(イベント)の連携 (例:冬のまつりにおける会場のはしご) 【里山・自然環境の保全・継承】 【集落の景観整備】 ・ 奥会津で統一した景観ガイドライン 地域文化の啓発・継承する人材育成 【地域の歴史・文化・景観の啓発・意識醸成】 【地域文化(祭事等)の保全・継承】 ・ 木地師の集落、文化の活用 その他 【地域の歴史・文化・景観の啓発・意識醸成】 【地域文化(祭事等)の保全・継承】 ・ 若手狩猟家の育成 ・ 鹿角・鹿革加工品の商品化・体験創出	地域産業の強化 【地域の農林産品、伝統工芸の魅力強化】 ・ 奥会津の特産品の継承・拡大 ・ 会津桐の連携 ・ 農業連携、かすみ草の廃棄部分の活用 【地域の農林産品、伝統工芸の流通・ 販売強化】 ・ 農商工連携イベント(rice to meat you) ・ 個々の事業者をつなぐ新規販路づくり ・ 他産業の農作物を檜枝岐の宿で提供 ・ ジヒエ料理 地域の農林産業を継承する人材育成 【地域の農林産品を継承する人材育成】 ・ 地域特産品強化(例:赤かぼちゃの生産 者高齢化対策、奥会津の公式特産品化) 【地域の伝統工芸を継承する人材育成】 ・ 木地師の集落、文化の活用	観光体験の魅力強化・ 地域内での情報発信 【地域体験プログラムの 開発・提供】 ・ 冬まつりの連携(会場のはしご等) ・ 伝統芸能、年中行事(イ ベント) ・ 奥会津ガイドブック ・ 新潟とつながるロング トレイルコース作成 ・ 広域周遊ルート創出 ・ 山開き開催の連携 【地域内での情報発信】 ・ 共通観光マップづくり ・ 共通観光窓口設置 ・ 観光協会間の情報共有 ・ 周遊プログラム作成	観光・交流人口の拡大 【観光客の拡大】 ・ 只見線再開通に向けた取組 ・ 奥会津が一体として見えるた めの取組(歳時記の里奥会津ロゴ マークの活用、パンフレット作成) 【地域内の相互観光・交流】 ・ 奥会津地域共通宿泊券 都市間交流・特定層との交流 【都市間交流】 ・ 都市間交流の促進(メリット・デ メリットの共有、宿泊や体験での連携) 【特定層等との交流】 ・ 独身層を、奥会津ツアーや合 コンから空き家までのお試し生活 につなげる	移住・定住希望者との マッチング 移住・定住希望者との マッチング 【地域住民への啓発・研修】 ・ 空き家関連事業(空き家 対策セミナー、住まいの終活 セミナー、勉強会) 【空き家バンク】 ・ 中心市街地、商店街等の 空き家の活用 ・ 空き家マッチング連携 【移住希望者への対応】 ・ 移住コーディネーター設 置、地域づくり、移住、生 業振興への貢献	レンタサイクル 【レンタサイクルの整備】 広域でのレンタサイクル実現 ・ 共通サイクルポート(電動自転車 乗り捨てスポット)設置 ・ 共通サイクルスポットマップ作製 ・ ほかの交通手段を組み合わせた 共通レンタサイクル(只見線を利用 した観光型) 地域間交通 【住民向け地域間交通】 二次交通課題の解決 ・ 交通機関の確保 ・ JR線、路線バスの乗り継ぎ情報 整理 ・ 二次交通(地域内公共交通)・一 次交通(只見線、会津鉄道等)の 連携(公共交通どうしの電計) ・ 地元が運営する県を超えた交通 手段(例:気張る!ふるさと丹後町「さ さえ合い交通」) 【観光客向け地域間交通】 ・ 町村横断型観光タクシー ・ 会津バスと民間バス会社乗り入 れの連携



① 地域の取組地域の歴史文化・自然の保全・継承、地域の歴史文化を継承する人材の育成

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
地域文化・原風景・集落・自然等の保全・活用	地域文化(建造物)の保全・継承	【柳津】軽井沢銀山煙突の保存、街道の整備 【三島】宮下地区で街並み景観保存。家々が屋号を表示し、伝統的な町並みの保存や地域づくりへの住民の関心を高めることを目的とする。 【金山】自然教育村会館の改修、旧五十島家住宅の保存 【昭和】喰丸小学校の保全・活用 【只見】叶津番所を町で取得し保存、活用 【南会津】館岩前沢曲集落の保存(重伝建保存事業)、大桃の舞台の保存・活用 【檜枝岐】「板倉」の移築・保存、農村舞台(歌舞伎舞台)の保全・活用	【共通】 ・建造物が知られていない(活用できていない) ・他地域との文化的広がりを奥会津として伝えられていない。 ・連携することで維持・保存が容易になる。 【三島】町内で飲食店等が少ないので、観光資源としての町歩きはPRしづらい。 【南会津】認知率が低い、修繕費用が高額、将来的に茅葺職人と材料(茅)が足りなくなる	【共通】 奥会津の共通した地域文化(曲屋、板倉、歌舞伎舞台等の建造物)の維持・保存中川農村公園整備事業(景観整備) 【南会津】 奥会津全域で茅材の生産と供給する体制づくり
	地域文化(祭事等)の保全・継承	【柳津】霊まつり灯ろう流し、丑寅まつり、会津やないづ冬まつり補助事業、圓蔵寺の行事 にんぎょうまんぎょう、虫送り、サイノカミなど集落ごとの伝統行事の継承 霊まつり、七日堂裸詣り、九月堂おこもりなどのお寺の行事の継承(※1) 冬まつり、そば祭り、そば祭り、農業祭りなどそれぞれの実行委員会事業(※2) 【三島】サイノカミをはじめとした伝統行事 【金山】弥平民具の保全・継承(自然教育村会館内保管)、山入歌舞伎の保存 【昭和】只見、南会津】早乙女踊り 【只見】おんべ(さいのかみ)伝統行事 【南会津】田島祇園祭屋台歌舞伎保存事業、古町のまつり事業	【共通】 ・地域の催事が知られていない(活用できていない) ・他地域との文化的広がりを伝えられていない。 ・連携することで維持・保存が容易になる。 【柳津】 ・(※1)伝統を受け継ぎ、観光に繋げる運営方法 ・(※2)各事業実施団体の相違による情報共有不足 ・各イベントの実施団体が異なっていて一体感がない 【金山】後継者不足 【南会津】後継者不足、次世代に魅力や誇りを伝えられていない	【共通】奥会津の共通した地域文化(祭事、舞踊)の維持・保存 【只見】冬まつりの連携(会場のはしご、移動等) 【檜枝岐】伝統芸能、年中行事(イベント)の連携
	里山・自然環境の保全・継承	【柳津】林道の整備(博士山、飯谷山登山道) 【三島】大林ふるさとの山整備、美坂高原整備 【昭和】御前ヶ岳登山道整備業務、矢ノ原湿原の案内パンフレットの新規制作 【南会津】田島地区山岳整備事業、田代山帝釈山環境保全業務(登山道、トイレの管理) 【檜枝岐】会津駒ヶ岳環境保全整備事業(木道整備)	【昭和】人的資源の制限、他の観光資源と比べた際の需要・優先度の低さから、年に1度しか整備できていない 【南会津】田代山湿原木道の更新(腐食破損が進行) 【檜枝岐】木材の高騰、国立公園内で擬木を使用することの難しさ	
	集落の景観整備	【柳津】圓蔵寺周辺の景観美化・清掃活動 【三島】美しい村づくり事業(地区づくり事業に補助) 【金山】中川農村公園整備事業(景観整備) 【南会津】集落応援交付金、彩のまちづくり事業(樹木や植栽の整備) 【只見】景観ガイドラインの構築	【共通】 奥会津に残る、我が国でも稀有な日本の原風景を、奥会津として維持・保存し、地域の魅力としていく必要がある。	【共通】 奥会津で統一した景観ガイドライン
	空き家の解体	【柳津】空き家対策事業(回収・解体等補助) 【三島】空き家対策事業(回収・解体等補助) 【金山】空き家・住宅対策事業 【昭和】空き家対策事業(解体等補助)(※特定空き家指定家屋のみ) 【只見】空き家対策事業(回収・解体等補助) 【南会津】危険空き家等除去事業 【檜枝岐】空き家対策事業(改修・解体等補助)	【三島】空き家(住宅以外)の適正な管理と解体の周知 【金山】居住するまでに時間がかかる ・補助額を超える部分の負担が大きい ・住民票の異動が補助条件 ・忙しい生活(スローリビングのイメージとのギャップ) 【南会津】未登記、相続・権利関係での滞り	
継承する地域文化の啓発・人材の育成	地域の歴史・文化、景観の啓発・意識の醸成	【柳津】会津やないづ歴史検定事業(※1) ボランティアガイドの運営及び育成(※2) 【三島】フォトコンテスト 【昭和】フォトコンテスト事業(※3) 【只見】只見おもしろガイドブック発行と只見学検定	【柳津】・(※1)検定事業に対する方向性(観光と教育) ・(※2)人材不足、育成ができていない。高齢化・資料不足。新しい担い手がない 【昭和】(※3)PRが十分とはいえないためか応募作品数が想定より少ない	
	地域文化(祭事等)の保全・継承	【只見】地域の伝統を学ぶ小学校授業の費用補助 【三島】生活工芸村構想事業(農山村生活実践体験、三島町生活工芸アカデミー)	【共通】奥会津の知られていない地域の文化を掘り起こし、活用していく必要がある。	【共通】木地師の集落、文化の活用
その他		【三島】地区支援事業補助金制度(地区の活性化を目的とした町内各地区に対する取組を支援するための補助金)に取り組んでいる。 【南会津】里山・自然環境保全、農作物の保護、農林産品の魅力強化、開発、体験×ニュー強化、有害鳥獣対策事業(鳥獣被害対策実施隊設置、狩猟捕獲推進活動補助、電気柵等補助・貸与)、ビジネスチャレンジ支援事業、小規模事業者等活性化事業	【南会津】狩猟者の高齢化・後継者不足、里山整備の担い手不足、耕作放棄地増加の加速、命の廃棄	【南会津】若手狩猟者の育成(狩りガール講座)、鹿角・鹿革加工品の商品化・体験創出

② 地域産業(農林産品・伝統工芸等)の魅力強化、流通・販売の強化、地域産業を継承する人材の育成

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
地域産業(農林産品・伝統工芸等)の強化	地域の農林産品、伝統工芸の魅力強化	<p>【柳津】微細彫り、桐木工品のブランディング 【金山】赤カボチャ加工工場整備(検討段階)・ブランディング、姫ます寿司新商品の開発、販売 【只見】産業振興対策事業補助金、おつまみマトン、せんべいづくり等地域特産品開発 【昭和村】からむし織関連(からむし織の里フェア、里雪まつり、体験) 【只見】「自然首都・只見」伝承産品の認証制度 【南会津】林業成長産業化地域創出モデル事業(機械購入補助、施設建設等) 地場産品奨励補助金</p>	<p>【共通】 奥会津には誇るべき農産品、林産品がまだまだある。 町村の枠を超えた連携と継承・拡大 【檜枝岐】製作者の高齢化</p>	<p>【共通】 ・奥会津の特産品の継承・拡大 ・会津桐の連携 【柳津】農業連携、かすみ草の廃棄部分の活用</p>
	地域の農林産品、伝統工芸の流通・販売強化	<p>【柳津】柳津産米、そば、ニンニク、雪掘りキャバツ、ブルーベリーなどの農産物普及 【三島】 ・農産物の販売・消費の拡大(「ふくしまプライド。」、地場産品販路拡大事業(展示会出展、マーケット把握) ・会津桐振興。役場に桐専門員を配置し、桐苗の栽培育成及び植栽地の管理、定期的な観察記録による個体管理を実施し、優良桐の産出と有効な栽培育成方法の確率に取り組んでいる。 【金山】農産物の販路・消費の拡大(「ふくしまプライド。」、通信販売 【昭和村】情報発信事業、スタンプラリー事業(商品が地場産品や村内金券)、喰丸小チャレンジショップ、道の駅特産品通信販売 【南会津】特産品購買支援事業(ECサイト運営、EC構築支援)、南会津新そばまつり事業 観光物産PR事業(友好都市等で実施) 【檜枝岐】農産物の販売・消費の拡大(「ふくしまプライド。」)</p>	<p>【共通】 奥会津の農産品、林産品の魅力を伝えるには、奥会津が連携することでより魅力を高めることができる。 【柳津】販路確保、PR不足、地場産品を安定的に提供できる店舗がない 【昭和】中通りを対象にPRを行った際のアンケートでは、昭和村がどこにあるか知らない人が2割以上いた。これまでのPRの仕方では届かない層が埋もれている。そこどう発信していくか。 【三島】販路開拓</p>	<p>【柳津×三島×金山×只見×会津坂下】農商工連携イベント(Rice to meat you (米・肉の広域連携イベント)) 【三島】個々の事業者をつなぐ新たな販路づくり 【檜枝岐】他町村の農作物を檜枝岐の宿で提供する等、物産の分野での連携(ジビエ料理)</p>
地域産業を継承する人材の育成	地域の農林産品を継承する人材の育成	<p>【柳津、昭和、南会津】かすみ草新規就農支援事業 【南会津】南郷トマト新規就農支援事業</p>	<p>【共通】 担い手の不足、高齢化等は町村の枠を超えることで解決を図ることができる。</p>	<p>【共通】 地域特産品の強化(例:赤かぼちゃ生産者の高齢化対策、奥会津全体の公式特産品として市場に出す等)</p>
	地域の伝統工芸を継承する人材の育成	<p>【三島】生活工芸村構想事業(農山村生活実践体験、三島町生活工芸アカデミー) ※再掲 会津桐振興。桐タンス職人育成のため、会津桐タンス(株)へ地域おこし協力隊を配置し、桐の育成から製造・販売までの一貫した体制構築を図っている。</p>	<p>【共通】 担い手の不足、高齢化等は町村の枠を超えることで解決を図ることができる。 【三島】稼げる仕組みを構築しないと、人材が定着しない</p>	<p>【共通】 木地師の集落、文化の活用 ※再掲</p>

③ 観光体験の魅力強化、地域内の情報共有・発信

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
<p>地域内での情報共有・観光体験の魅力強化</p>	<p>地域体験プログラムの開発・提供</p>	<p>【柳津】レンタサイクル、ペコ(ペろ)タクシー、あわまんじゅうづくり体験、雪彫りキャバツ体験、赤ペコ絵付け体験(※1) 【三島】奥会津編み組細工関連(編み組体験) 【金山】霧幻峡の渡し(廃村になった集落や昔ながらの渡し舟、かつて三更集落(関根集落)があった中川エリア渡し舟運行実証事業) 【昭和】からむし織関連(からむし織の里フェア、からむし織の里雪まつり、からむしの織体験) 【只見】只見線観光路線化モデル事業(三石神社縁結びPR、おつまみマトンの製造販売) ふるさと只見案内人協会 山と森トレッキング レベルアップ研修 ふざわ分校による各種体験事業 あいづ只見振興公社による体験事業 【南会津】地域資源を活用(桜ウォーク、こども溪流まつり、館岩名山・大桃の舞台・伊南川・ひめさゆり)、山開き事業 【檜枝岐】会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業(動画作成、モニターツアー)、檜枝岐の魅力を提供する事業(スタンプラリー等)</p>	<p>【共通】 各地域で生まれた体験プログラムを共有・相互連携することであらたな魅力が生まれる。 【柳津】 ・(※1)このほか、桜堤のコスモス植付体験、湧き水巡り体験等新しいPGの提案。柳津町の自然を楽しむアクティビティの展開。 ・(※2)トレイルコースの整備等地域ボランティアの協力 【南会津】 ・日帰り登山が可能のため宿泊につなげることが難しい ・「観る」以外の参加方法がわからない</p>	<p>【只見】冬まつりの連携(会場のはしご、移動等)※再掲 【檜枝岐】伝統芸能、年中行事(イベント)※再掲 【柳津】新潟とつながるロングトレイルコース作成(※2) 【南会津】 ・広域周遊ルート創出 ・山開き開催の連携 ・奥会津ガイドブック「やったことないことだけやってみよう」→いつでも何かできるプランBの提案素材がある</p>
	<p>地域内での情報発信</p>	<p>【金山】ふるさと情報発信事業 【只見】只見駅前賑わい創出事業(総合案内機能・飲食物販等整備)</p>	<p>【共通】 各地域で生まれた体験プログラムを共有することで、あらたな相互連携、あらたな市場が生まれる。 【金山】発信媒体の多様化に伴い、より有効なSNS等への移行</p>	<p>【柳津】共通観光窓口設置 【金山、昭和、南会津、檜枝岐】観光協会間の情報共有 【金山】奥会津周遊プログラム作成</p>

④ 観光・交流人口、関係人口の拡大

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
観光・交流人口の拡大	観光客の拡大	<p>【柳津】うつくしまみずウォーク補助事業(ウォーキングイベント)、観光客誘客促進事業(農工商連携イベント、花火打ち上げ、周遊バス運行、PR動画作成)、会員事業所のPR事業(情報を集約発信)</p> <p>【昭和】R4年度ラッキー公園整備による誘客</p> <p>【只見】只見線による交流創出、映画「峠」を契機とした地域振興・誘客</p> <p>会津高原スキー場協議会誘客促進事業、誘客・PR関連事業(観光誘客プロモーション事業、広告宣伝事業、観光パンフレット制作事業)</p> <p>【檜枝岐】情報発信事業(福島県及び近隣県での観光キャラバン)</p> <p>【下郷・南会津・只見・檜枝岐】まるごと南会津観光PRフェア</p>	<p>【共通】</p> <p>「奥会津」として一体感のあるプロモーションの方が、単独よりも効果が高い場合もある</p>	<p>【金山】2022年度の只見線再開通に向けた取組</p> <p>【昭和】奥会津が一体として見えるための取組(歳時記の里奥会津ロゴマークの活用、パンフレット作成)</p>
	地域内の相互観光・交流	<p>【三島】三島町プレミアム宿泊券事業補助金</p> <p>【南会津】南会津に泊まって応援キャンペーン事業、イベント等感染防止対策事業</p>	<p>【共通】</p> <p>奥会津の住民が、奥会津のことを知らない、まずそこから始めることが重要。</p>	<p>【三島】奥会津地域共通宿泊券</p> <p>コロナ後にまず行う活動としての奥会津内交流促進</p>
特定層との交流 都市間交流・都市間交流・特定層との交流	都市間交流	<p>【柳津】東京お台場地区との交流、姉妹都市・出雲崎との交流</p> <p>【三島】台湾との交流事業(工芸品関連、テレサ・テン関連)</p> <p>【金山】台湾との交流事業、只見線開通関連の取組</p> <p>【昭和】自然教室(埼玉県草加市の児童)</p> <p>【只見】千葉県柏市とのふるさと交流事業</p> <p>【南会津】都市交流事業、文京区交流事業</p>	<p>【共通】</p> <p>現地での交流や体験の中で、2町村、3町村での対応とした方が効果的な場合もある</p>	<p>【檜枝岐】都市間交流の促進(メリット・デメリットの共有、宿泊や体験での連携)</p>
	特定層等との交流	<p>【三島】ふるさと運動(特別町民制度)</p> <p>【只見】山村教育留学制度(県立只見高校入学生徒に寮を提供)</p> <p>【南会津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南会津農村生活体験推進協議会支援事業 ・観光アンバサダー育成事業 ・合宿誘致促進事業 ・婚活支援事業(出逢いフェスタ、各種セミナー)、縁結びサポーター事業、結婚新生活支援補助 <p>【檜枝岐】リピーター・ファンの創出・つながりの維持強化</p> <p>【三条市・只見・南会津】289号八十里越連携事業</p>	<p>【共通】</p> <p>現地での交流や体験の中で、2町村、3町村での対応とした方が効果的な場合もある</p> <p>【三島】特別町民のふるさとの想いやアイデアを町づくり生かすための仕組みの構築</p> <p>【南会津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢層のマッチングが難しいが限定すると応募者数不足 ・地元開催に抵抗感ある 	<p>【南会津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥会津ツアー「ひとり参加」 ・キャンプ場で合コン「もてなされないむらコン」 ↓ ・空き家でお試し生活「いつか暮らし」

⑤ 移住・定住希望者とのマッチング(空き家や就業先の紹介、地域住民との交流支援等

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
移住・定住希望者とのマッチング	地域住民への啓発・研修	【昭和】空き家関連事業(住まいの終活セミナー、勉強会)	【共通】 空き家問題は7町村共通の課題。セミナーや対策など、連携、共有することで効果を高めることができる。	【昭和】空き家関連事業(住まいの終活セミナー、勉強会) 【只見】空き家対策セミナー 【南会津】移住定住関連
	空き家バンク	【三島】空き家対策事業(空き家・空き地バンク) 【金山】空き家バンク 【昭和】中心市街地、商店街等の空き家の活用、空き家マッチング連携 【只見】空き家対策事業(空き家・空き地バンク) 【南会津】空き家バンク、定住促進すまいる補助(住宅取得、空き家改修、帰郷住宅改修) 【柳津】空き家対策事業(空き家・空き地バンク)	【共通】 移住希望者にとって、町村の違いは関係ない。奥会津として一体的に対応すべき。 【三島】移住・定住希望者の需要に応じた利活用可能な物件が少ない。 いわゆる危険な空き家とされる特定空き家等についての早急な対策が求められている。 【金山】 ・見学するのに時間がかかる。 ・鍵問題 ・取得・居住まで時間や費用がかかる ・登記上の権利異動	【柳津】中心市街地、商店街等の空き家の活用 【柳津】空き家マッチング連携 【南会津】移住定住関連
	移住希望者への対応	【金山】地域協同組合(奥会津金山特定地域づくり事業協同組合) 【只見】独自の移住コーディネーター 只見人と触れ合う体験ツアー 【南会津】若者定住応援事業(新卒、U・Iターン)、帰郷支援事業(看護師) 【福島県事業】移住コーディネーター	【共通】 移住希望者にとって、町村の違いは関係ない。奥会津として一体的に対応すべき。 【南会津】仕事、住まい、生き方のコーディネーター	【三島】移住コーディネーター設置 地域づくり、移住、生業振興への貢献 【南会津】移住定住関連

⑥ 地域間交通の強化(レンタサイクル活用、住民向け公共交通、観光客向け公共交通)

	取組	7町村の取組	取組を進める中で見えてきた課題	課題を広域連携で解決すべき取組例
レンタサイクル	レンタサイクルの整備(電動)	【柳津】レンタサイクル事業 【三島】駅からサイクリング 【金山】会津川口駅レンタサイクル事業 【昭和】レンタサイクル事業 【只見】電動レンタサイクル整備 【南会津・下郷・会津鉄道】レンタサイクル事業	【共通】 各町村でレンタサイクルを導入しているが、近隣町村への移動、乗り捨て等の要望がある。	【柳津】共通サイクルポート設置 【三島】レンタサイクル事業の連携(相互乗り捨て等) 【三島】JR只見線を利用した輸行 【金山】ほかの交通手段を組み合わせた共通レンタサイクル 【金山】広域でのレンタサイクル 【昭和】共通サイクルスポットマップ作製 【只見】共通の電動自転車乗り捨てスポット
地域間交通	住民向けの地域間交通	【三島】町営バス事業 【金山】乗合タクシー 【昭和】村民送迎 【南会津】地域公共交通運行事業(デマンド交通、乗合タクシー運行) 【南会津】公共交通対策事業(検討の実施)	【共通】 公共交通による、町村間をまたぐ行き来が困難 【三島】一般会計の繰入や補助金収入を除いた場合、毎年歳出超過になっており、将来に亘って持続可能な公共交通体制の構築が課題である。	【柳津】JR線、路線バスの乗り継ぎ情報整理 【柳津】二次交通課題の解決 【只見】二次交通(地域内公共交通)・一次交通(只見線、会津鉄道等)の連携 【南会津】交通機関の確保、公共交通での連携 【金山】「NPO法人 気張る!ふるさと丹後町」が実施している「ささえ合い交通」について、検討したい。奥会津では各町村にタクシー会社が存在し丹後町とは条件が異なり、さらにUber利用等導入が困難である等の課題があるものの、限られた財源の中で実施が可能な二次交通としては良い事例。
	観光客向け地域間交通	【金山】観光タクシー運行事業 【只見】定期路線ワゴン「自然首都只見号」運行 【昭和】レンタカー利用者宿泊費助成事業 只見線・会津線・路線バスの利用促進と昭和村への誘客を図るための、周遊モデルコース紹介パンフレットの制作・配布 【只見】只見駅観光路線化モデル事業(観光タクシー新規ルート検討) 【南会津】田島駅起点の観光シャトルタクシー	【共通】 公共交通による、町村間をまたぐ行き来が困難 【昭和】バスの便数が少ないため制約が大きい	【只見】町村横断型観光タクシー 【金山・昭和・南会津】金山-昭和-南会津町にかけでの会津バスと民間バス会社乗り入れの連携

3-4 広域連携すべき事業の絞り込み(ヒアリング調査)

- 広域連携すべき事業の絞り込みに向けた第2回ヒアリング調査及び第4回検討会において、特に、各町村・観光協会の実情を踏まえながら、令和4年度(2022年度)から取り組める事業の絞り込みを行った。
- 各町村・観光協会が主体性を持ち、意欲的に取組める事業として、4つの事業テーマ(下図の赤字の分野)について、令和4年度(2022年度)の実証事業に取り組むことで、7町村・観光協会が合意した。

百年続く奥会津 (目指す将来像)

- ・ 住民と観光客双方が魅力と愛着、誇りを持つ奥会津(奥会津のより深い部分)。
- ・ 7町村の連携により価値の再発見やニーズに合った情報提供を目指す。
- ・ 奥会津を一つのディスティネーションとしてプロモーション
- ・ 観光客が奥会津を楽しむ移動手段構築。

- ・ 奥会津の生産者と商・宿の連携による域内流通、新たな事業展開
- ・ 地域の伝統産業の継承と移住者の仕事の問題の双方を解決する。

- ・ 移住しやすい・住みやすい環境を広域的に整備し、人口減少に歯止めをかける。
- ・ 7町村の連携により効率的な情報提供が可能になるほか、移住の仕方の選択肢が広がる。

- ・ 7町村の連携により住民・観光客双方にとって利便性の高い交通を実現する。

7町村連携による 検討テーマ(案)

住民も含めた奥会津観光交流推進

- 地域の魅力/情報の共有・活用
- インバウンド・特定ターゲットへのプロモーション連携
- レンタサイクル、タクシー、只見線を活用した滞在・周遊環境

産業振興 × 雇用創出

- 食の提供の連携
- 新規産品開発・資源活用
- 後継者・生産量が減少している農産品対策

広域的な移住受入体制構築

- 移住関連の連携・情報共有
- 交流人口関連

利便性の高い地域交通

- 新しい交通
- 広域公共交通

7町村連携のプロジェクトイメージ

【地域の魅力/情報の共有・活用】

- ・ **【短期】観光協会職員の相互交流・情報の共有などから開始。**
- ・ 奥会津7町村共通割引
- ・ **【短期】「せどの森の宴」などを活用した地域資源のコンテンツ化**
- ・ 季節イベントの相互連携、奥会津観光の共通Webサイト(予約・決済プラットフォーム)

【インバウンド・特定ターゲットへのプロモーション連携】

- ・ **【短期】インバウンド対応窓口の一本化**
- ・ 教育旅行、合宿、農泊受け入れ時の相互連携・協力、県内客へのプロモーション連携

【レンタサイクル、タクシー、只見線を活用した滞在・周遊環境】

- ・ **【短期】レンタサイクルの相互乗り捨て(一部地域)、レンタサイクルマップ、料金体系統一、1DAYPASS、只見線のサイクルトレイン**

【ロングトレイル、アウトドア施設整備】

【食の提供の連携/域内流通】

- ・ **【短期】地域内の生産者と宿・飲食店のマッチング、地域内販売・流通を高める(農×商、宿)**

【奥会津の魅力を活用した新規産品開発、ブランド再構築】

- ・ **【短期】奥会津特産品・食文化を活用したコンテンツ作成(例:せどの森の宴の「うちまめ」など)**
- ・ 加工品、奥会津弁当・グルメ、林業、ジビエ等の新たな開発、二次加工場の相互利用
- ・ 農商連携イベント

【後継者・生産量が減少している農産品と就農事業の連携】

- ・ 地域内外からの就農希望者、ワーキングホリデー、体験留学等の受入による、奥会津特産品の生産量拡大、都市間連携、将来的な就農・起業支援へ展開。

【移住の課題解決に総合的に取り組む体制確立】

- ・ **【短期】人材育成・地域内イベントなど連携しやすい取組から開始**
例: 7町村内視察・担当者勉強会住民向け空き家活用セミナー、移住者向け交流会、7町村婚活など
- ・ 中長期的に、移住定住に関する7町村共通プラットフォームを構築
例: 空き家情報の共有、空き家活用支援制度の共有、移住・就業支援制度、空き家の査定などの共有、移住・定住コーディネーター設置など
- ・ **【短期】姉妹都市連携の情報共有**





- ・ デマンドバスの拡大、タクシーのICT化の拡大
- ・ 広域バスの連携、観光客向けの二次交通の整備

第2回ヒアリング調査結果①

		柳津	三島	金山	昭和	只見	南会津	檜枝岐
住民も含めた奥会津観光・交流推進	全体	【奥会津を一つのディステーションに】						
	顧客別プロモーション連携 (インバウンド・教育旅行)	<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンド対応は奥会津広域で取り組むべき。 インバウンド誘客窓口の一本化。 外国人向けコンテンツ(せと森の宴、うちまめ等の食文化)。 <p>【関東圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> 関東圏顧客の誘引(南会津側との連携) ※滞在・周遊 <p>【地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民向けツアー 	<p>【地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥会津7町村共通宿泊割引チケットも 	<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾等、既に商談が来ているが、旅行会社とのやり取りの際、他町村の情報もまとめて情報を提供したい。 奥会津全域に関する情報・コンテンツの共有、商談・問い合わせ窓口一本化・奥会津での滞在の提案。 	<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力すべきところで協力。 <p>【県内・近隣客】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内・会津人たちに来てもらいたい 	<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス客が中心。宿泊キャパも少なく、宿泊事業者にとってインバウンドの受入のハードルは高い。 	<p>【インバウンド】</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人は周遊するためできる部分で連携したい。 	<p>【リピーターの滞在化(2泊化)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 檜枝岐村はリピーター客が多いが、高齢化。 個々の宿の顧客(ファン)づくりから、村としての顧客を作ることも必要。 <p>【姉妹都市交流(検討)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市交流による宿泊客拡大の可能性、メリット・デメリットについて情報が欲しい。
	観光協会の連携	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町村の観光課協会どうしのつながり(すぐに動き出せる)。 <p>【ネットワーク化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客の問合せに奥会津として対応できる、開業・料金等細かい情報の共有 <p>【Webサイト連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥会津全体で運営しながらも、個々の町村で更新できるHP(柳津町は町と観光協会が同じサイトで相互に修正できる)。 	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 5町村観光協会連携は既に開始。7町村観光協会交流会は、やるとなったら協会の中から誰かしらは参加する。お金をかけずにできる取組もある 観光協会によって運営形態の違い、温度差、業務量に配慮が必要(定期検討会は難しい可能性も)。 	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光協会の情報共有は来年度ではなく今年度から行つてよい。 	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは情報共有することで、やるべきことが見えてくるのではないかと。 	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中身はそれぞれの町村・協会が用意する必要はあるが、外向けの発信は連携で実施が可能。 	<p>【協会交流・情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信はやりやすい分野の一つ。 	
レンタサイクル・ロングトレイル(周遊)	<p>【レンタサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互乗り捨て(充電器、再配置(シルバーセンター等)、) 自転車活用による只見線利用。 <p>【ロングトレイル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町村のウォーキングイベントの連携、宿泊を織り交ぜる。 <p>【アウトドア体験・宿泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> アウトドア顧客向けコンテンツ(国定公園化によるキャンプサイト等) 	<p>【レンタサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 柳津と2町村で相互乗り捨ては比較的容易。 レンタサイクル運搬、サイクルトレイン <p>【只見線を含めた周遊(レンタサイクル含む)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 台湾からの観光客は第一橋梁から金山まで行く人が多い。 只見線に乗ることが外国人観光客の一つの目的になっている。 		<p>【レンタサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互乗り捨ては距離が離れており現実的ではないが、広域マップ作り(ブロックに分けてそれぞれの走り方の魅力を発信)、料金体系の統一、1DAYフリーパス等は可能 <p>【道の駅連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥会津として道の駅の連携 	<p>【レンタサイクル】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互乗り捨ては距離が離れており現実的ではない。 町村内での自転車での循環は可能性がある。 	<p>【フリータクシープラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> フリータクシープランが人気だが、町村の垣根がなくなると良い。 		

	柳津	三島	金山	昭和	只見	南会津	檜枝岐
産業振興×雇用創出	<p>【ブランド農産品の継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の育成(就業支援等)。 <p>【奥会津ブランドの構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ブランド化した作物同士の連携による「奥会津ブランド」確立。安売りせず生産者・生産域を拡大。 <p>【体験としての再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存農産物を体験として組み立てることで、衰退しかけているところももう一度頑張るきっかけを作る(例:うちまめ) 			<p>【奥会津内流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 檜枝岐で昭和村の米や蕎麦を使ってもらえるか。 檜枝岐村が求める食材の情報欲しい。 流通は見えない部分があるので把握が必要(会津地鶏は高額で東京流通が主)。 	<p>【奥会津内流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内加工会社(山菜など)が域内の道の駅や旅館民宿で活用していただければ販路は広がる(地域内に今まで目を向けてこなかった)。 <p>【奥会津レシビ・弁当】</p> <ul style="list-style-type: none"> 素材が各町村から出したレシビ開発とその共有・展開。(例:只見町の山菜おにぎり) 	<p>【奥会津内流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家がそれぞれの経営スタイル、出荷先があることに配慮が必要。 南郷トマト農家が営む民宿では多くの南郷トマトが出される(お客さんに喜ばれる)。ただ、農協を通さないと南郷トマトと名乗ることはできない誘客・収入にどのようにつなげていくか。 	<p>【奥会津レシビ・弁当】</p> <p>【奥会津内流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 滞在型の観光を目指すために、宿の料理を工夫する必要がある。 どのような食材、メニューとするかは旅館組合で検討中。
広域的な移住受入体制構築	<p>【奥会津移住定住ポータルサイト】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状県のポータルサイトはあるが、情報がほとんど載っていない。 奥会津全体で運営しながらも、個々の町村で更新できるHP(柳津町は町と観光協会が同じサイトで相互に修正できる)。 			<p>【空き家活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移住希望者に対して移住可能な空き家が少ない。広域で情報共有したい。 空き家査定機関が欲しい。 空き家活用についての住民理解促進(セミナー実施、空き家バンク登録メリットの広報) <p>【専門組織設立(検討)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域連携により件数・業務量の規模が拡大すれば、専門組織設立も可能か。 	<p>【移住者コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の就農希望者に向き合い、ワンストップで対応。 国の制度では長期間の対応は難しいため、広域連携でできたら良い。 7町村を理解したコーディネーターを置くことは現実的か? この地域を理解する人をターゲットとした移住を促進したい。 <p>【空き家活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 就農希望者向けの空き家は多くない。広域連携は難しいか。 		
利便性の高い地域交通	<ul style="list-style-type: none"> 南会津方面との公共交通、周遊の検討(奥会津を一つのエリアとして捉える) 				<ul style="list-style-type: none"> 二次交通は大きな課題。域内での取組のみならずそれを周辺地域に派生させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通は広域連携で取組やすい 只見町のバスとの連携 観光客向けの二次交通(館岩)の必要性の指摘がある。 デマンドバス(館岩、田島4か所)で実証実験、デマンドバスドライバーが不足)、タクシーのICT化など、現在進めている取り組みの共有、拡大 	

- これまでの検討結果を基に整理・絞り込んだ4つの事業テーマについて、令和4年度実証事業の実施に向けて、全国の先進事例を参考としながら、具体的な事業内容の検討を行った。
- 実証事業については、「まずやってみることを重視しながらも、単年度の実施に終わらせず、改善しながら継続する事業とするために、2～3年程度の目標を見据えながら、誰がどのように継続するべきか、また、実証事業結果を踏まえながらどのように拡張するべきかについても、実証事業の重要な目標として設定した。

2～3年程の目標	まずやってみる(R4年度)	誰が、どのように続けるか・拡大するか (次年度に向けた検討)
 <p>7町村どこでも、奥会津の観光案内ができるようになる</p>	<p>【観光協会職員の相互交流・情報の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7町村観光協会職員の相互交流、広域で共有すべき情報の整理(どんな問い合わせが多いか?どんな情報が必要か?) ・ 実際に行って見て確認する(「共有」すべき情報を実際に見て議論する実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に情報共有する方法の検討(定期情報交換、メールやLINEなどによる連絡方法を検討) ・ 観光客に広域情報を提供する方法の検討(地元の生の情報を掲載した広域MAP制作、デジタルサイネージなど)
 <p>奥会津として、訪日外国人への発信・誘客できるようになる</p>	<p>【インバウンド対応窓口の一本化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪日エージェントからの問合せ・商談の際に、奥会津全体のような情報が求められるかを整理。実際に情報提供を実施してみる(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続可能な体制、要員等の検討 ・ 必要なセールスツールの検討(制作) ・ 地域の受け入れ体制の課題や解決方法の検討
 <p>奥会津の特産品を、奥会津内で楽しめるようになる</p>	<p>【地域内の生産者と宿・飲食店のマッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 奥会津内の農家、農業団体等で賛同する生産者と、奥会津内の宿泊施設・飲食店で、賛同する事業者のマッチング(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度以降の継続的な取組の検討
 <p>「レンタサイクル旅」が、奥会津の共通の楽しみ方の一つとなる</p>	<p>【レンタサイクルの相互乗り捨て(一部地域)、レンタサイクルマップ、料金体系統一(奥会津1DAYPASS等)、只見線の利活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各町村のレンタサイクルの仕様(バッテリー機種、充電ポート)や利用状況、マップや割引などの情報共有・整理。 ・ 7町村のレンタサイクル利用地域・コース設定(一部乗捨てコース検討)、町村共通割引やマップ等の可能性検討(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町村共通の割引やマップ等の制作。 ・ 只見線と連携した取り組みの可能性の検討。 ・ 乗り捨ての仕組みを実証(住民参加、モニター参加) ・ 只見線利用の実証(現状で可能なパターン)の検証)

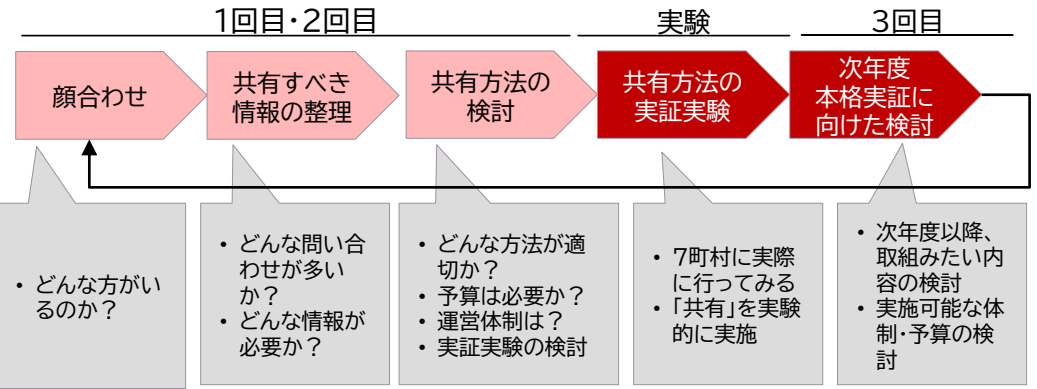
① 観光協会職員の相互交流・情報の共有

2~3年程の目標

2022(令和4)年度 of 取組

中長期的な目標

・奥会津を訪れた観光客に対して、7町村どこでも、奥会津の観光案内ができるようになる。



- ・奥会津を一つのディステーションとしてプロモーション
- ・7町村の連携により価値の再発見やニーズに合った情報提供を目指す。
- ・住民と観光客双方が魅力と愛着、誇りを持つ奥会津(奥会津のより深い部分)につなげる。

他地域の事例

観光情報、バリアフリー情報を地域で共有・広域MAP化



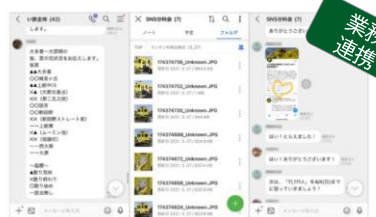
岐阜県飛騨地域の市民団体が制作した「飛騨おでかけバリアフリーマップ」を作成。飛騨市・高山市・下呂市・白川村の店舗や施設を実際に訪ね、観光客目線で調査。マップにはハード面だけでなく、高齢者や身障者の「心のバリアフリー」の店舗も掲載。

施設オープン時や新コンテンツ発表時に、メディア・市民、地域の観光事業者向けに内覧会を実施



三重県いなべ市観光協会では新しく完成した「立田農園」や付属施設の内覧会をSNSを通じて発信。自身も参加し、その情報をブログにアップしている。

広域の観光協会職員間の情報交換をSNSを活用して日常的に実施



千葉県いすみ鉄道では、「LINE WORKS」を使ってリアルタイムに情報を共有。花や桜の開花情報など、全従業員が把握し、乗客からの質問に誰でも対応できる環境を整えた。(LINEWORKSは1ユーザー/月フリー、もしくは300円~1000円)

デジタルサイネージによって、本日のイベントや天候など急な情報提供に対応



北海道上川町層雲峡温泉では、観光協会、宿泊施設フロント、観光施設に共同でデジタルサイネージを設置。観光客からの問合せの多いロープウェイの運行状況、季節のイベントや紅葉の情報を、毎日デジタルサイネージで発信。ライブカメラでリアルタイム情報を共有

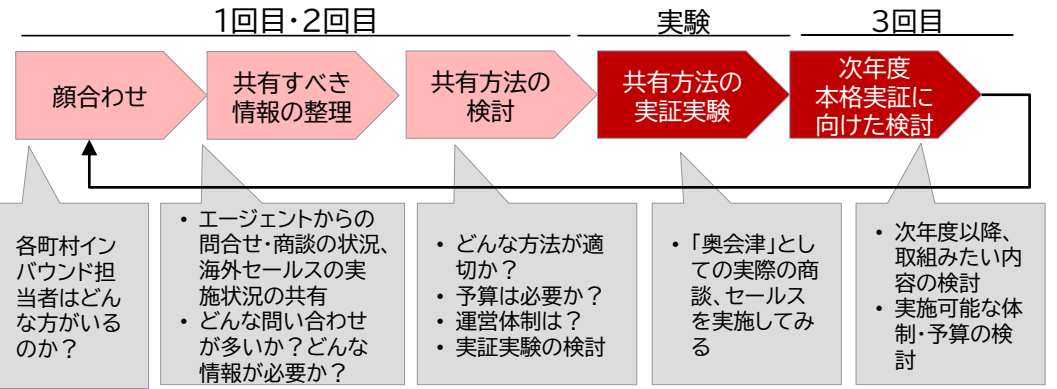
② インバウンド対応窓口の一本化

2~3年程の目標

2022(令和4)年度 of 取組

中長期的な目標

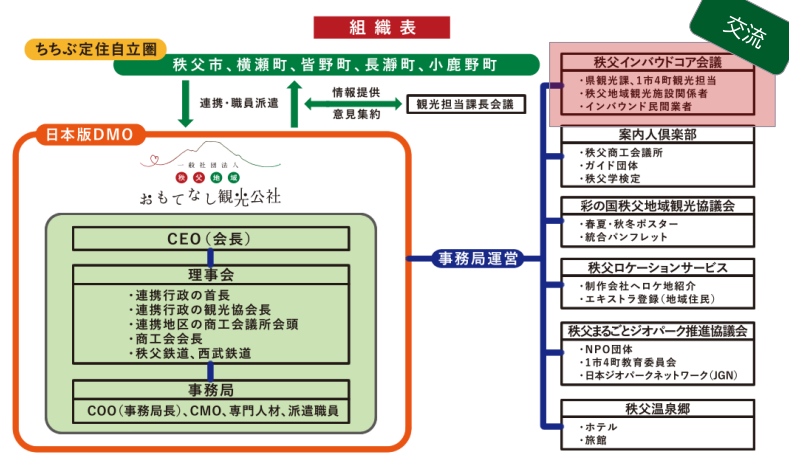
・奥会津を一つのディスティネーションとして、訪日外国人への発信・誘客ができるようになる。



- ・奥会津を一つのディスティネーションとしてプロモーション
- ・奥会津地域のインバウンド対応力向上
- ・住民と観光客双方が魅力と愛着、誇りを持つ奥会津(奥会津のより深い部分)につなげる。

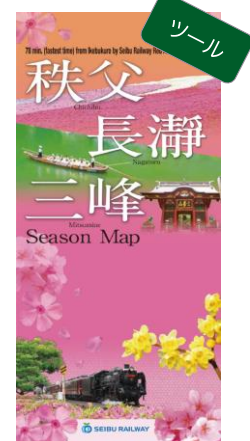
他地域の事例(一般社団法人 秩父地域おもてなし観光公社(DMO)の事例/秩父市・横瀬町・長瀬町・皆野町・小鹿野町)

秩父インバウンドコア会議を設置(県観光課、1市4町観光担当者、秩父地域観光施設関係者、民間業者(西部鉄道、旅行会社、情報発信事業者))



当初、方針さえまとまらなかったが、「議論のベースとなる情報を全員が収集(インプット)・共有できる効率的な仕組み」として「インバウンド政策コア会議」を立ち上げ。コア会議は、秩父地域のインバウンドに関わる者がひとつの場に集まり、誰でも自由にプレゼンし、意見を戦わせ、事業を決定していく場。公社は事務局として会議の運営にあたる。開催は1~2カ月に1回。

広域連携によるセールスツール作成



訪日外国の体験コーディネーター



英語教室



③地域内の生産者と宿・飲食店のマッチング

構成町村における特産品・農産物（地域内流通を図りたい特産品・農産物の共有）

時期	特産品・農産物	町村	出荷時期(収穫時期)	左のうち最盛期	主な生産者	備考
通年	会津地鶏	三島町	通年	通年	(有)会津地鶏みしまや	
	奥会津金山天然炭酸の水	金山町	通年	〃	(株)ハーベス	生産者は左記のみ
	幻の青ばととうふ	金山町	通年	〃	(株)玉梨とうふ茶屋	〃
	桐下駄	金山町	通年(詳細不明)	〃	矢沢桐材店	
	原木シイタケ	昭和村	通年		青木農園	
	粒厳選生産者限定コシヒカリ	只見町	通年		只見米ブランド協議会	
	只見天領そば	只見町	通年		只見町農業再生協議会	
	米	南会津町	通年	10~11月		
	そば	南会津町	通年	10月上旬	耻風協業組合	
	そば	南会津町	通年	11月	会津高原たていわ農産	
	椎茸・きくらげ	南会津町	通年		(有)伊南の郷	
	岩魚	檜枝岐村	通年	通年		
春~夏	アスパラ	南会津町	4~5月、7~8月			田部地区 水無地区
	ひめます	金山町	4月~9月末(漁期)	左記同様	沼沢漁業協同組合	
	山菜	三島町	5月~6月	5月~6月		
	アスパラガス	柳津町	5月~7月	6月	斎藤健太	
	トマト	柳津町	7月~11月	8月~9月	株式会社アグリネクスト	
	トマト	南会津町	7月下旬~10月下旬		南郷トマト農家 (有)伊南の郷	
	キュウリ	柳津町	7月~11月	8月~9月	田崎泰之	
	奥会津金山赤カボチャ	金山町	8月中旬~9月下旬	左記同様	(株)奥会津金山大自然	
秋~冬	そば	三島町	10月~11月	10月~11月	桐の里産業(株)	
	エゴマ	三島町	10月	10月	桐の里産業(株)	
	米	三島町	10月	10月	桐の里産業(株)	
	米	昭和村	10月	10月	(有)グリーンファーム	
	ヒラタケ	三島町	10月~11月	10月~11月	桐の里産業(株)	
	そば	昭和村	11月	11月	(有)グリーンファーム	
	コシヒカリ米粉・米麺・ショートパスタ	只見町	11月下旬~4月上旬		(株)新国農園	
	餅	南会津町	秋~冬		(有)伊南の郷	
	赤かぶ	南会津町	10~11月	10月	会津高原たていわ農産	
	赤かぶ漬け	南会津町	10~2月	11月	平野物産	
	林檎	南会津町	11月			中荒井地区 長野地区
その他	えごま、みそ、米(「大源流米」商標登録あり)	金山町				その他として
	大蒜	南会津町				

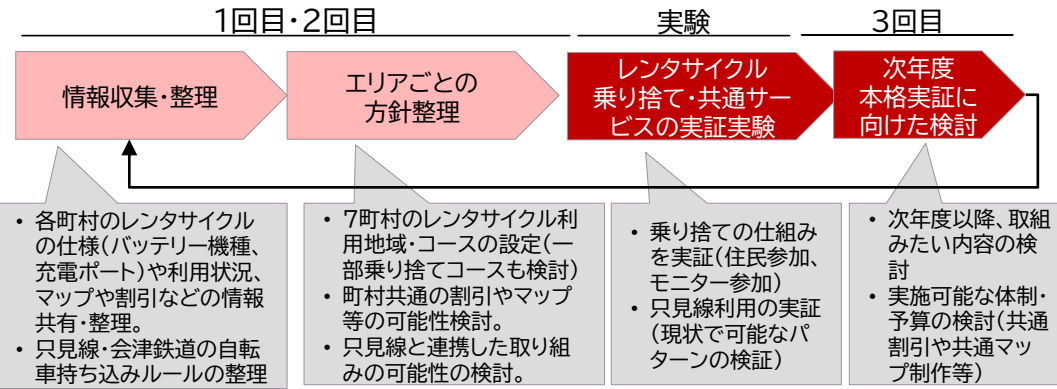
④ レンタサイクルの相互乗り捨て(一部地域)、レンタサイクルマップ、料金体システム(奥会津1DAYPASS等)、只見線の利活用

2~3年程の目標

2022(令和4)年度 of 取組

中長期的な目標

「クルマでは気づかない、奥会津の宝のものを見つけるレンタサイクル旅」が、奥会津の共通の楽しみ方の一つとなる。



- 奥会津を一つのディスティネーションとしてプロモーション
- レンタサイクル+(持ち込み)サイクリング+ロングトレイル、アウトドアなど、奥会津をゆっくり楽しむ観光への展開
- 住民と観光客双方が魅力と愛着、誇りを持つ奥会津(奥会津のより深い部分)につなげる。

他地域の事例(長野県 信州いいやま観光局 信越自然郷アクティビティセンター)

信州いいやま観光局は信越9市町村広域観光連携会議と連携した地域連携DMO。信越自然郷アクティビティセンターでは7つのエリア・コースを設定。周遊に加え、乗り捨てがでる片道コースもある。

コースのレベル感(利用者レベル)等を共通フォームで紹介

📍 走行距離	22.1km
👥 対象	ファミリー、グループ、カップル
🕒 所要時間	2.5時間
📍 スタート	飯山駅
📍 ゴール	飯山駅

41 千曲川周遊 菜の花公園ルート

気軽にショートトリップで飯山の魅力を堪能

菜の花公園は、千曲川沿いにあり、コース途中が平野で走りやすい。往復コースで約2時間かかるコースが、乗り捨てコースも設定。また、千曲川の清流が楽しめる。千曲川の清流を堪能しながら、千曲川の自然を堪能できる。千曲川の自然を堪能しながら、千曲川の自然を堪能できる。

📍 走行距離	22.1km
👥 対象	ファミリー、グループ、カップル
🕒 所要時間	2.5時間
📍 スタート	飯山駅
📍 ゴール	飯山駅

健康食など地域の食の魅力を紹介

健康食など地域の食の魅力を紹介

健康食など地域の食の魅力を紹介

駅から温泉までの片道コース(帰路は自転車は乗り捨て、公共交通利用)

駅から温泉までの片道コース(帰路は自転車は乗り捨て、公共交通利用)

他地域の事例(鉄道持ち込み)

鉄道では、専用の輸行袋に解体して収納が必要(一部の露出もNG。最近では解体せずにフル収納できるものも市販されている。



サイクルバッグ「TRAVELO」20000円

会津鉄道では「サイクルトレイン」を全年で実施。西若松駅から会津田島駅まで。申し込みなしでご利用可能。GW期間やお盆期間、年末年始等繁忙期はご利用不可。



JR東日本では水郡線(事前登録)や、両国駅と千葉房総半島を結ぶ、「自転車」と一緒に房総半島を旅するジョイフルトレイン「B.B.BASE」を運行。



3-6 連携事業の課題等整理(まとめ)

- 奥会津地域の広域連携事業の課題は、①7町村の取組が共有されていない、①広域連携事業に向けた具体的議論の場がない、③広域連携事業の実施主体が不明確、④具体化に向けた予算措置が不明確といった点にあった。
- 本事業において、①～③については、検討会議を中心とした取組の共有、連携事業に向けた具体的な議論を行うことで、広域連携事業の土台が形成された。ただし、実施する広域連携事業は収益を生む事業ではないことから、連携事業を継続・拡大していくための予算措置や実施組織の形成等について、継続的に議論していくことが必要である。
- 7町村からの意見(下表)にも見られるように、広域連携事業を各町村で予算化していくためには、具体的な事業内容を明確にしていく必要がある。奥会津振興センターの役割として、7町村の主體的な参画を得ながら先行的に実証事業を実践し、その継続に向けた議論を通して、必要に応じて7町村での予算化等を検討していくことが求められる。

今後の連携事業の進め方についての7町村意見(第2回ヒアリング調査より)

7町村の関わり方	<ul style="list-style-type: none"> ● このような形ならばできるのではというものを、2023年に実証実験を行い、軌道に乗せていき、運営実行委員会を作り、事業者が中心となり回し、そこに行政的な意見を反映させていく、という仕組みを作っていく。最終的にはそこがゴールで、そこで二次交通がうまく回っていくと良い。ステップアップしていくイメージ。 ● 全体の計画をセンターで策定し、その後町村で検討・推進するといった方向が取組みやすい。 ● 誰がやるかが重要。センターが調整役を担い、やり方を見せる必要がある。やり方と仕組みを残せば、人が変わっても続けることが可能。 ● センターが来年実証事業を実施し、町村ができるものがあれば、再来年度以降は委託等すればよい(せど森の宴が今成功しているのは、一旦センターがやってみて見本を見せたから)。 ● 具体例があると動きやすい。 ● 背景の異なる町村の連携事業は継続が困難。方向性が合わなければ中断も致し方ない。まず一步を踏み出す。 ● 予算化にあたって内部調整が難しい場合もある。スタートは絞り込んで、次第に実績を積み重ねる中で理解を得ていくスタイルが良い。
実効性の高い事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 資金補助がなくなると継続できないものは実施しない。 ● できるものからやっていく。できないものを例に挙げても仕方ない。 ● お金が絡まない連携からまずはじめた方が早く動くことができる。 ● 実施体制検討のスケジュールがポイント。センター事業として実験する。 ● 他事業との組み合わせにより実現ができる形を目指せると良い。
町村における予算措置	<ul style="list-style-type: none"> ● 予算化については具体化していく中で、必要に応じて予算化検討。 ● 予算化については何をやるかが決まらないと動くことができない。 ● 従前のセンター事業との差別化が必要。 ● 既にある事業と連携できるもの、わかりやすい事業(例:只見線)を掲げると良い(新たな事業予算化は困難。) ● 予算編成は10月から始まる。それまでに絞り込みをして、そのうちいくつかを事業化。 ● 予算決定は他町村よりも遅いため融通は効きやすい(予算の査定が1月の下旬から)。 ● 事前に資料があれば説明することは可能。一定規模の予算以上になると早めに手続きを行う必要がある。

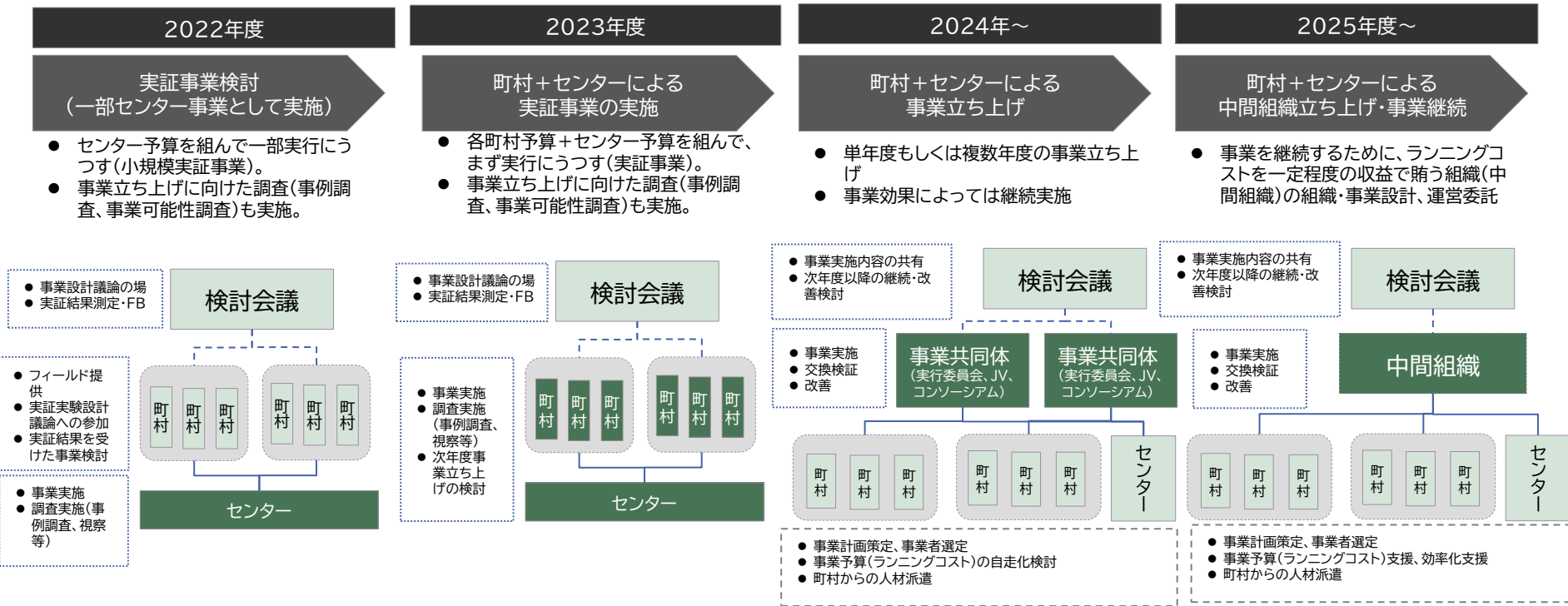
4

奥会津地域における
広域地域づくり法人(中間事業体)の組成・育成に向けて

4-1 奥会津地域における広域地域づくり法人(中間事業体)の組成・育成に向けて

- 本事業は、「組織ありき」ではなく、「100年続く奥会津地域」の実現に向けて、7町村・観光協会が取り組むべき広域連携事業とは何かを中心に議論を進めてきた。また、各町村の意見からも「まず取り組んでみる」こと、その成果の中から継続性や組織体制を議論すべきとの指摘が多くみられた。
- 本事業を通じて7町村・観光協会が議論し、とりまとめた4つの広域連携事業については、まさに「まず取り組んでみる」ことを重視している。しかし、事業を通じて目指すべき将来像、継続するための組織体制を念頭に事業を進めて行くこととしている。
- 具体的には、初期段階としては奥会津振興センターや各町村による実証事業として開始し、継続すべき事業については事業共同体(実行委員会やコンソーシアム等の任意団体形式)による実施、さらに永続的に事業を実施する組織として中間組織の立ち上げ(法人格の取得)といった、段階的な実施体制の組成・育成が必要となる。
- 本事業によって、抽出・整理した広域的に連携すべき事業については、P36、P37において、段階的な実施体制の組成・育成のイメージを整理した。

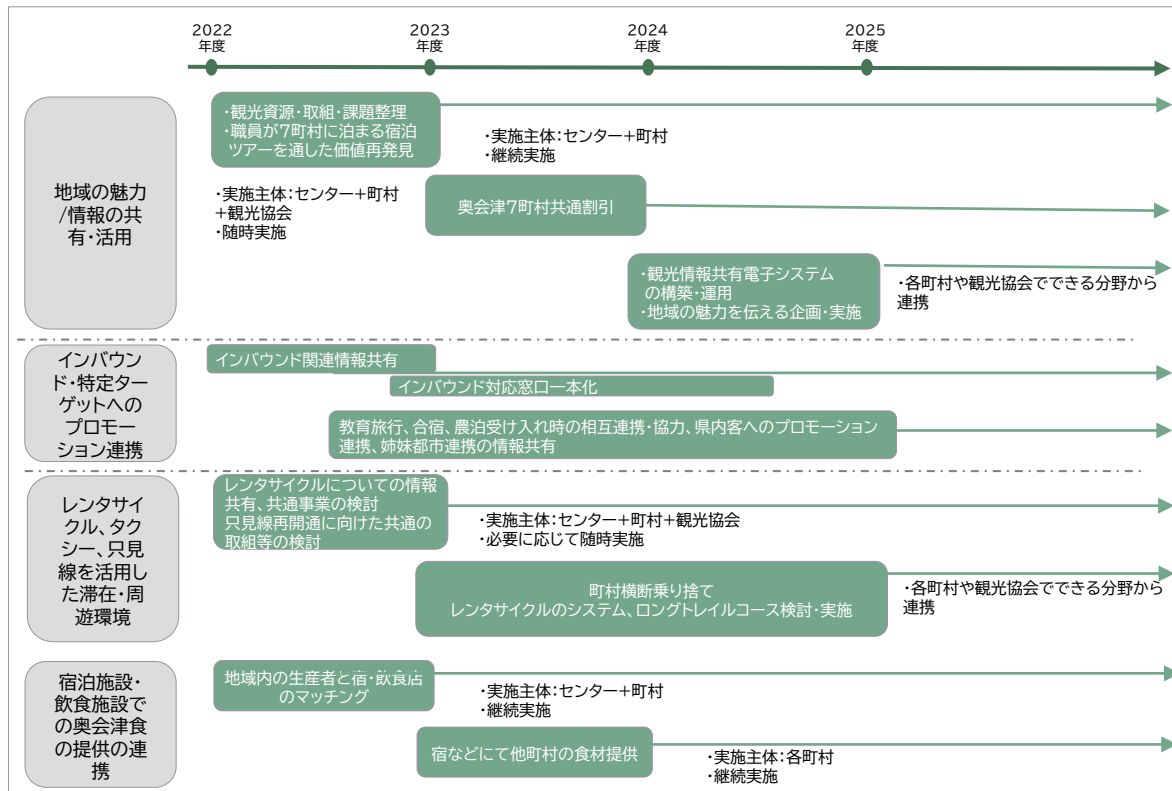
将来を見据えた実施体制の検討スキーム (P9図の再掲)



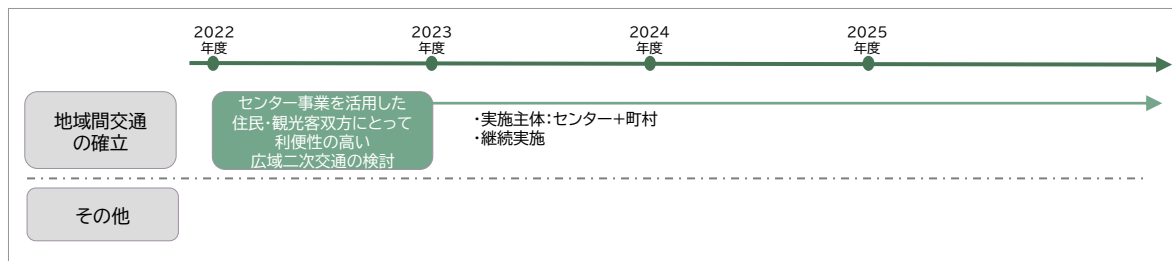
広域連携を検討すべき事業における、2022年度以降のスケジュール、目指すべき将来像と運営体制

百年続く奥会津に向けた7町村連携

住民も含めた奥会津観光・交流推進



利便性の高い地域交通



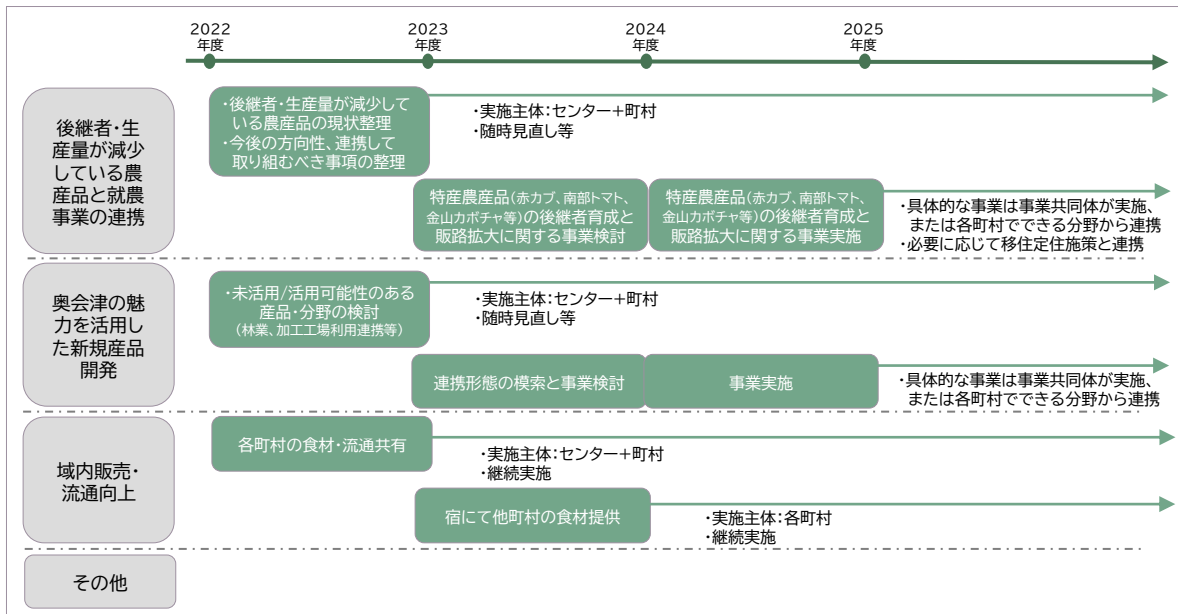
将来像	将来運営体制
<p>住民と観光客双方が魅力と愛着、誇りを持つ奥会津(奥会津のより深い部分)を知ってもらおう観光の形を検討する。</p> <p>その際、7町村の連携により価値の再発見やニーズに合った情報提供を目指す。またそのような観光の実現のために二次交通も活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体 要不要含め検討 検討会議 (センター+町村+観光協会)
<p>7町村の連携により住民・観光客双方にとって利便性の高い交通を実現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体・検討主体 各町村 検討会議 (センター+町村)

4-1 奥会津地域における広域地域づくり法人(中間事業体)の組成・育成に向けて

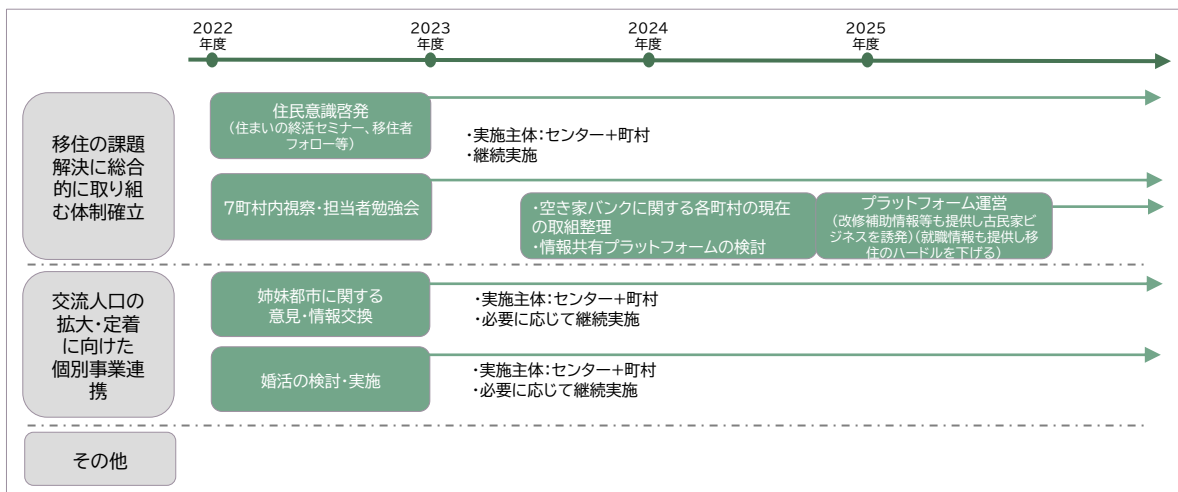
広域連携を検討すべき事業における、2022年度以降のスケジュール、目指すべき将来像と運営体制

百年続く奥会津に向けた7町村連携

産業振興 × 雇用創出



広域的な 移住受入 体制構築



将来像	将来運営体制
<p>地域の伝統産業の継承と移住者の仕事の問題の双方を解決する。</p> <p>小規模な産業であっても、7町村の連携により発信や新たな事業展開が容易になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体 要不要含め検討 検討組織 検討会議(センター+町村)
<p>移住しやすい・住みやすい環境を広域的に整備し、人口減少に歯止めをかける。</p> <p>7町村の連携により効率的な情報提供が可能になるほか、移住の仕方の選択肢が広がる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体 要不要含め検討 検討組織 検討会議(センター+町村)

5 まとめ・次年度以降の提言

- 本事業を通して得られた成果や課題をもとに、今後の方向性について以下の3点に取りまとめた。
- これらの方向性をもとに、令和4年度(2022年度)においては、「奥会津地域広域連携地域づくり検討会議」の継続、広域連携事業の具体化に向けたワーキング(WG)を設置し、広域連携事業の実現に向けて次年度以降も取組むことで、検討会議としてのとりまとめができた。

奥会津地域の広域連携事業の実現・継続的な実施に向けた今後の方向性

1. 7町村の情報共有・議論の継続の必要性

- 令和3年度(2021年度)においては、「広域連携事業の土台づくり」を目指し、7町村の観光振興担当者、観光協会職員の共通理解を進めることができた。
- その背景には、奥会津振興センターが事務局として、奥会津地域広域連携地域づくり検討会議をはじめ、アンケート調査、ヒアリング調査を積極的に実施したことがあげられる。
- 各町村の意見からも、7町村の連携において奥会津振興センターの事務局(情報のハブ、議論の場としてのプラットフォーム)としての役割の重要性が指摘されており、検討会議の継続、事業の具体化に向けたワーキング等を通して積極的に事務局機能を果たしていくことが重要と考えられる。

2. 広域連携テーマの具体的な枠組みの必要性

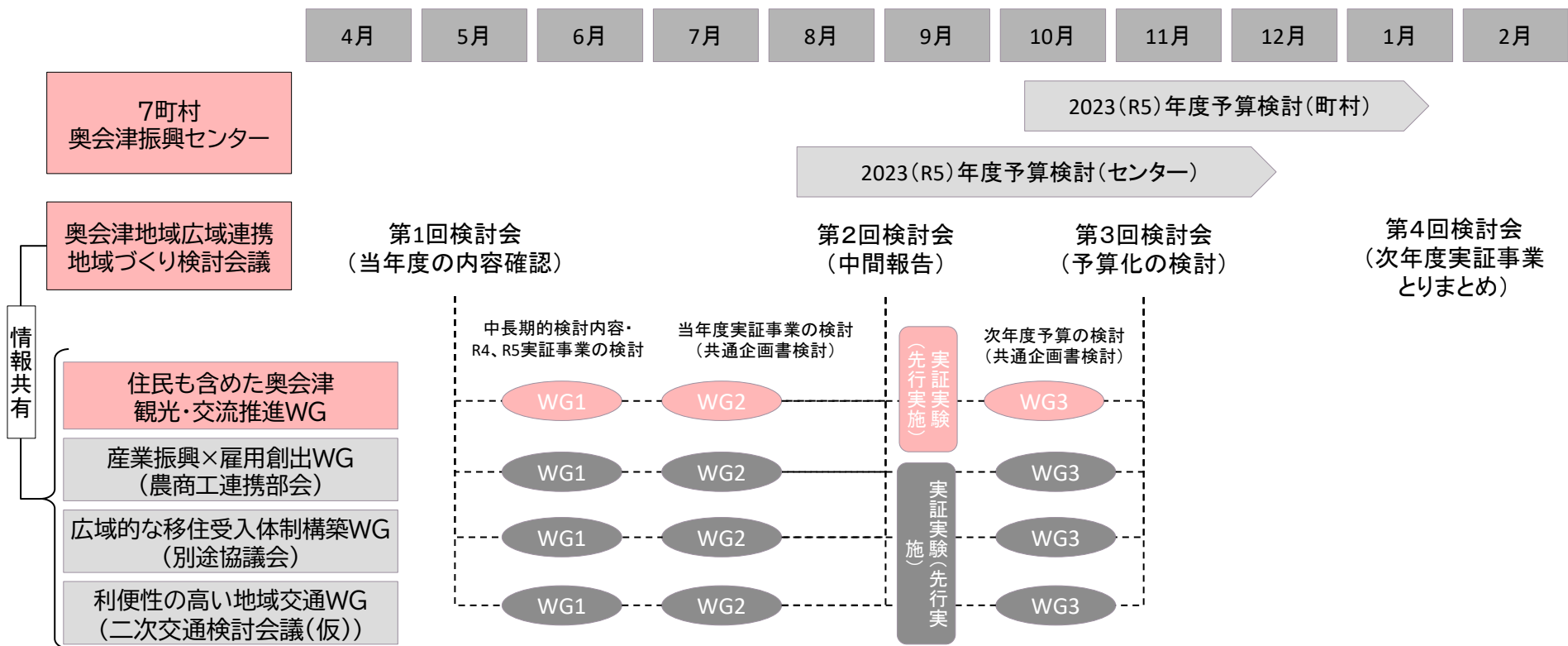
- 令和3年度(2021年度)は観光面にとらわれず、奥会津の7町村が共通する課題や現在の取組を議論の場にのせ、広域連携事業の具体化に向けた議論を行った。その結果、広域連携によって効果が生まれやすい分野や広域連携に取り組みやすい分野が洗い出され、さらに観光振興によって地域の産業活性化、雇用の場の創出、移住・定住の呼び水、地域社会・文化の継承につなげていく必要性が共有され、さらに「まずできることを」といった具体的・実践的な取組み分野の選定につながった。
- これは、初期段階では奥会津振興センター事業として、将来的には各町村の予算を活用するなど、具体的な体制・予算の枠組みを含めた議論を当初から想定・共有していたことの効果と考えられる。今後も、広域連携事業の実現・拡充に向け、事業枠組みを想定しながら議論を進めて行く必要がある。

3. 実証事業の確実な推進と将来を見据えた改善議論の必要性

- 本事業を通して、次年度から取組を開始する4つの事業が抽出されたが、こうした実証実験は、単年度の事業ではなく、将来的・継続的な事業として内容、体制、組立方法等を検討するための最初の一步である。
- 今後、実証事業の実施を通して、将来の継続や拡大展開を念頭に、事業設計、組立、実施体制、継続的な予算措置・要員といった改善議論を継続的に進める必要がある。

- 令和4年度(2022年度)においては、「奥会津地域広域連携地域づくり検討会議」を継続的に実施する。また、本年度に整理した広域連携事業のテーマの実証事業や継続的な展開を議論・実施するワーキング(WG)を設置する(①住民も含めた奥会津観光・交流推進WG、②産業振興×雇用創出WG、③広域的な移住受入体制構築WG、④利便性の高い地域交通WG)。
- 「奥会津地域広域連携地域づくり検討会議」では、各WGの検討内容を共有しながら次年度実証事業に向けた事業内容・予算等を検討する。さらに、検討会議メンバーは、「住民も含めた奥会津観光・交流推進WG(観光WG)」を兼ね、令和4年度(2022年度)の実証事業の実施・改善点や継続可能性の検討、令和5年度以降の継続的な実施に向けた事業内容・体制・予算等を検討し、とりまとめる。
- 他のWGについては、奥会津振興センターが主催する農商工連携部会、移住・定住検討会議(仮)、二次交通検討会議(仮)のメンバーがそれぞれ担うこととし、進捗状況等を定期的に「奥会津地域広域連携地域づくり検討会議」の場で共有する。

令和4年度(2022年度)の体制とスケジュール



参考資料

概要版 令和3年度奥会津地域における広域連携地域づくり推進業務のまとめ

1. 2021年(R3年)度の検討内容

将来像

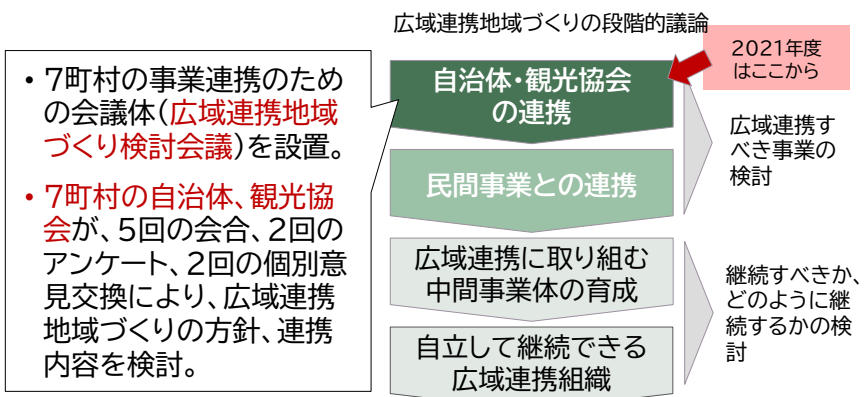
「百年続く、奥会津」に向けて、奥会津7町村に適した広域地域づくりの**事業と仕組み**を**継続**して運営する

長期目標

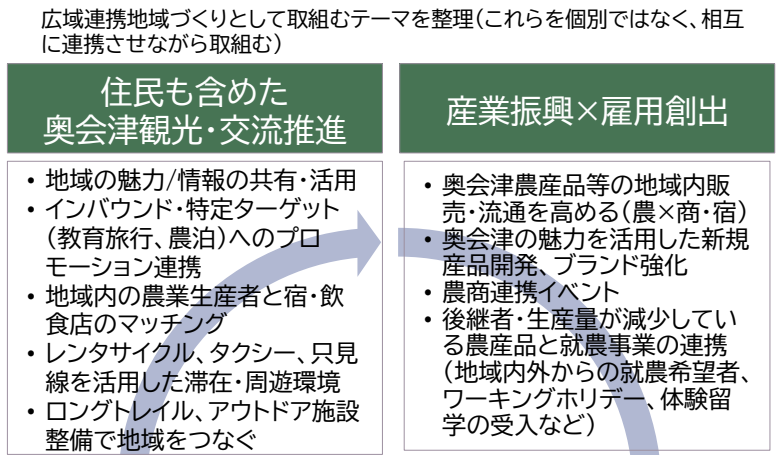
- 地域の主体的な取組の中から、特に**町村の枠を超える**ことで、より効果的・効率的な事業運営(省力化・自走化・地域貢献)、顧客視点のより魅力のある事業創出(顧客獲得・高付加価値化)を目指す。
- 観光業に限らず、農林業、商工業等、**幅広い地域産業連携(地域経済循環)**を目指す。

R3年度実施内容

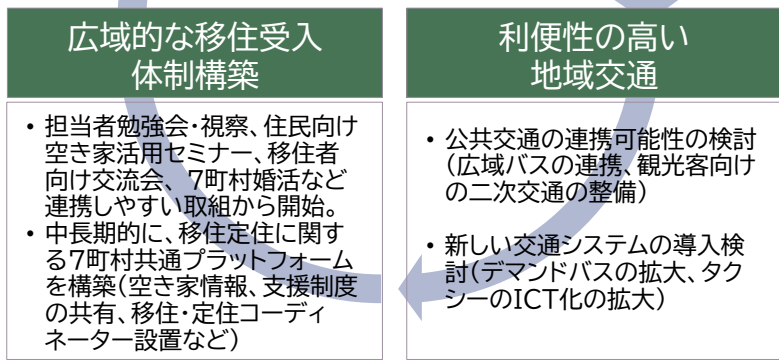
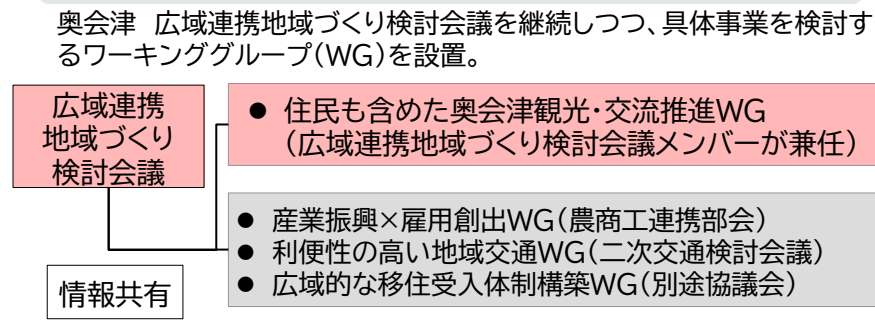
1 段階を踏んで、町村の枠を越えて連携する**下地**を創る



2 広域連携で解決を図るべき事業の検討







3 次年度からの検討体制



2. 2022年(R4年)度の事業実施内容(案)のとりまとめ

ポイント1 「できることから、まずはやってみる」(議論→実証実験) ポイント2 「誰が、どのように続けるか」を議論(実証実験→議論)
 ポイント3 実証実験の段階などで、民間事業者の協働を図る

「住民も含めた奥会津観光・交流推進WG」の例

2~3年程の目標	まずやってみること(R4年度)	誰が、どのように続けるか・拡大するか (次年度に向けた検討)
 <p>7町村どこでも、奥会津の観光案内ができるようになる</p>	<p>【観光協会職員の相互交流・情報の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7町村観光協会職員の相互交流、広域で共有すべき情報の整理(どんな問い合わせが多いか?どんな情報が必要か?) 実際に行って見て確認する(「共有」すべき情報を実際に見て議論する実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に情報共有する方法の検討(定期情報交換、メールやLINEなどによる連絡方法を検討) 観光客に広域情報を提供する方法の検討(地元の生の情報を掲載した広域MAP制作、デジタルサイネージなど)
 <p>奥会津として、訪日外国人への発信・誘客できるようになる</p>	<p>【インバウンド対応窓口の一本化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 訪日エージェントからの問合せ・商談の際に、奥会津全体のような情報が求められるかを整理。実際に情報提供を実施してみる(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> 継続可能な体制、要員等の検討 必要なセールスツールの検討(制作) 地域の受け入れ体制の課題や解決方法の検討
 <p>奥会津の特産品を、奥会津内で楽しめるようになる</p>	<p>【地域内の生産者と宿・飲食店のマッチング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥会津内の農家、農業団体等で賛同する生産者と、奥会津内の宿泊施設・飲食店で、賛同する事業者のマッチング(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降の継続的な取組の検討
 <p>「レンタサイクル旅」が、奥会津の共通の楽しみ方の一つとなる</p>	<p>【レンタサイクルの相互乗り捨て(一部地域)、レンタサイクルマップ、料金体系統一(奥会津1DAYPASS等)、只見線の利活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各町村のレンタサイクルの仕様(バッテリー機種、充電ポート)や利用状況、マップや割引などの情報共有・整理。 7町村のレンタサイクル利用地域・コース設定(一部乗捨てコース検討)、町村共通割引やマップ等の可能性検討(実証実験) 	<ul style="list-style-type: none"> 町村共通の割引やマップ等の制作。 只見線と連携した取り組みの可能性の検討。 乗り捨ての仕組みを実証(住民参加、モニター参加) 只見線利用の実証(現状で可能なパターンの検証)

3. 今後の展開(案)

- 2022年(R4年)度は実証実験を通して、将来の事業内容、体制、組立方法等を検討(センター予算での継続実施は困難なため、次年度以降は一部町村事業(予算)との連携を検討)
- 2023年(R5年)度は、町村×センターによる実証実験として試行(拡大展開)を念頭に進め、将来的な本格実施へと移行していきたい。
- 各年度の実証実験を通して、本格実施に向けた事業設計・組立を継続的に議論(実施体制、継続的な予算措置・要員など)。